

# 長万部

長万部町開礎150年・町制施行80年

*Oshamambe Town  
Anniversary*



長万部町開礎150年・町制施行80年  
記念誌

〒049-3592  
北海道山越郡長万部町字長万部453-1  
Tel. 01377-2-2000 Fax. 01377-2-4884

発行／令和5年11月1日  
発行者／北海道長万部町  
制作／長万部町まちづくり推進課

## 激動の150年と まちのこれから。

交通の要衝として  
長い歴史を刻んできた長万部。  
地方創生への取り組みと逸品ミニトマトの誕生、  
至上のホタテ貝「湾宝」のブランド化、  
そして、7年後に控えた  
北海道新幹線長万部駅の開業と次代のまちづくり。  
まちには、いま新たなムーブメントが  
生まれようとしている。  
これまでの歩みを振り返り  
未来に向かう町の挑戦と躍動を追ってみよう。



## 長万部町民憲章

昭和48年8月29日制定

わたくしたちは、朝に夕に内浦の潮さいを聞き道南の交通の  
かなめとして歴史をくりひろげてきた長万部の町民です。  
わたくしたちは、この町の町民であることに誇りを持ち、  
生きがいのあるまちづくりをねがい町民憲章をさだめます。

一、ちからを合わせ心あたたかなまちをつくろう  
すこやかなところとからだをはぐくみ  
すべてのひとに親切といたわりを

一、ちからを合わせくらし豊かなまちをつくろう  
しごとをくふうし、技術をたかめ  
むだをはぶいて、よりよい生活を

一、ちからを合わせ規律あるまちをつくろう  
きまりをまもり、事故をなくし  
公共の施設をたいせつに

一、ちからを合わせ環境のきれいなまちをつくろう  
自然をまもり育て、公害をふせぎ  
いつも身のまわりから清けつに

一、ちからを合わせ文化の高いまちをつくろう  
よい伝統を受けつぎ学芸にしたしみ  
みずから学ぶ努力を





明治6年に副戸長が設置されたことを一つの礎として150年。昭和18年に町制が始まってから80年を迎えました。

この間、幾多の困難を乗り越えてきた先人たちの努力と、今を生きる私たちの努力の積み重ねにより、記念すべき年を迎えることができました。

さて、世界中に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も5月に5類感染症に移行し、長万部町でも4年ぶりとなる東京理科大生の来町や、色々な催しが復活するなど、徐々に賑わいを取り戻しているところであります。この間、多くのことを学ばせてもらいました。その中でも一番大きいのは「人」であります。医療現場を支えた「人」、物流を止めなかった「人」、感染者の生活を支えた「人」など、改めて「まちづくり」は「ひとづくり」であることを実感したところであります。

平成から令和に変わり、時代も大きな転換期を迎えています。人口減少・少子高齢化、カーボンニュートラルやAIの実用化等、一昔前では考えられないようなことが起こっています。

私たちは激動する社会に対応できるよう、引き続き努力を重ねて参ります。

ます。

2030年度には北海道新幹線が全線開業します。長万部町も現在、関連工事が進み、新幹線の足音が大きくなっていることを実感しているところでもあります。引き続き町民の皆様の見解を伺いながら、準備を進めて参ります。

当町の悲願である北海道新幹線長万部駅開業も時代の区切りではありますが、ゴールではなく、開業後もまちづくりの歩みを止めることなく、第4次まちづくり総合計画のキャッチフレーズである「ひらけ！つながれ！おしゃまんべ！！」みんなで楽しい未来へ」の実現に向け、皆様と手を取り合いながら、10年後、20年後、またその先の未来の長万部町に、子どもたちの笑顔が弾け、町民の皆様のいきいきとした姿を想像し、町政の舵取りを担います。

長万部町の歴史を振り返るとき、本誌が皆様のお役にたてることを祈念して、発刊にあたってのご挨拶いたします。

長万部町長 木幡正志

|    |
|----|
| 04 |
| 12 |
| 18 |
| 20 |
| 22 |
| 24 |
| 26 |
| 28 |
| 30 |
| 36 |
| 38 |
| 40 |
| 42 |

# INDEX

## ごあいさつ

**HISTORY OF OSHAMAMBE** 長万部町の軌跡

**交通** 交通の要衝としての150年、そしてこれから。

**湾宝** 長万部発ホタテ貝ブランド「湾宝」に込めた想い。

**シャクシャインロード事業** 13市町が協力、シャクシャインを顕彰する慰霊旗リレー。

**地方創生** 地方創生で、長万部ブランドを発信する。

**東京理科大学長万部キャンパス** 多様な連携・協力を築いた歴史と国際デザイン経営学科の発進。

**災害と防災の歴史** 長万部を襲った災害を振り返る。

**子ども・子育て支援** 子ども・子育て支援が、次代の長万部を築く。

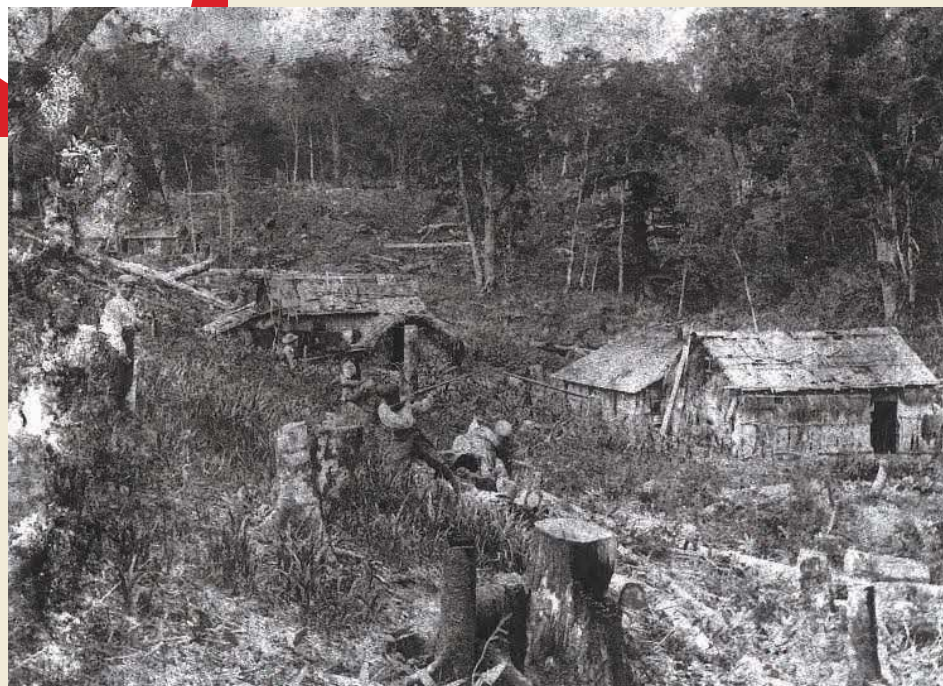
**学校教育** 長万部の学校、今昔をたどる。

**地域おこし協力隊** 地域おこし協力隊がまちを活性化させる。

**まつり** まちを元気にするまつり。

**記憶の物語** 寄稿・櫻田智也

資料編



栗の木岱（現在の栗岡） 明治末頃

## 明治時代

### 明治6年、長万部村のはじまり

近世末、長万部は近世最大の民族衝突であるシャクシャインの戦いを経て、江戸幕府の献上品となるオットセイの名産地として知られていた。明治維新後、蝦夷地が北海道となり、明治6年には長万部村が発足し、函館支庁出張所が置かれた。これが現在の町の礎となった。明治後半には鉄道が開業し、発展の足がかりが築かれた。

## 長万部町の軌跡①

- |             |       |                                               |
|-------------|-------|-----------------------------------------------|
| <b>1669</b> | 寛文9年  | 国縫・長万部がシャクシャインの戦いの決戦場となる                      |
| <b>1773</b> | 安永2年  | 番屋が建てられ、幕府の役人や旅行者のための宿泊に利用される                 |
| <b>1799</b> | 寛政11年 | 幕府が長万部を含む東蝦夷地を直轄支配地とする<br>砂原～長万部間に陸路開発        |
| <b>1807</b> | 文化4年  | 幕府が蝦夷地全域を直轄支配                                 |
| <b>1821</b> | 文政4年  | 幕府が蝦夷地全域を松前藩領とする                              |
| <b>1855</b> | 安政2年  | 再び幕府の直轄支配となる                                  |
| <b>1856</b> | 安政3年  | 南部藩が幕府に対露警備を命じられ<br>長万部分屯所（南部陣屋）設置（翌年廃止）      |
| <b>1864</b> | 元治元年  | 長万部村と称され村並（和人地）となる（名主・竹内弥兵衛）                  |
| <b>1869</b> | 明治2年  | 蝦夷地が北海道と改称、長万部村が胆振国山越郡に属す                     |
| <b>1873</b> | 明治6年  | 名主・竹内弥兵衛が副戸長を命じられる（長万部開礎の年）<br>札幌本道（函館～札幌間）開通 |
| <b>1878</b> | 明治11年 | 栗の木岱（現在の栗岡）が主要な開墾地となる。長万部に公立学校設置（長万部学校）       |
| <b>1879</b> | 明治12年 | 長万部に公立病院設置                                    |
| <b>1883</b> | 明治16年 | バッタの大群が農作物を荒らす                                |
| <b>1884</b> | 明治17年 | 森警察署の警察分署を設置                                  |
| <b>1885</b> | 明治18年 | 市街地の半分以上が焼ける長万部大火。長万部沖でアイヌ民族による記録上最後のクジラ漁     |
| <b>1891</b> | 明治24年 | 函館～札幌間（定山溪経由）新道開通                             |
| <b>1898</b> | 明治31年 | 戸長役場を新築                                       |
| <b>1903</b> | 明治36年 | 森～熱帯間鉄道が開通し、国縫、長万部、二股に停車駅開設                   |
| <b>1904</b> | 明治37年 | 函樽鉄道全通                                        |
| <b>1906</b> | 明治39年 | 二級町村制施行                                       |
| <b>1908</b> | 明治41年 | 長万部種馬所開設                                      |



豊津・長万部種馬所 昭和9年

OSHAMAMBE

HOKKAIDO

# HISTORY OF OSHAMAMBE 長万部町の軌跡

開礎150年町制施行80年、年表と写真でたどる長万部。

令和5年、開礎150年町制施行80年を迎えた長万部町。

古くは縄文時代から人々の生活が営まれてきたこの地が、歴史上大きくその地域性を示すことになったのは、17世紀の「シャクシャインの戦い」だった。この頃すでに、長万部は日本海側と太平洋側を往来する交通の要衝として重視されていた。

明治期の入植者の大量移入を契機に鉄道網の結節点として賑わい、漁業や畜産業を中心に発達し、さらに新たなまちづくりに挑戦する長万部町の歩みを年表と写真とともに振り返る。



長万部温泉街 昭和30年代



長万部温泉の噴出 昭和30年

## 終戦後 昭和39年

終戦後、民主化が図られる中、公選による初の町長選が実施された。農協や漁協、警察署、消防本部、教育委員会、商工会の発足など、町のさまざまな分野で基盤が築かれた。昭和30年代には、天然ガスと温泉の噴出により、町にとって重要な要素が加わることとなった。農業は近代的酪農経営が導入され、戦後開拓の進展とともに大規模化した。

長万部温泉と天然ガス事業がスタート。

## 大正時代 昭和20年

戦時下の町制施行で長万部町となる。大正から昭和にかけて、着々と鉄道網が充実する一方、村は鰯漁の最盛期を迎えフィッシュミール工場の建設など漁業発展の礎が築かれた。戦時中の昭和18年、町制が施行され、長万部村から長万部町となった。



静狩金山精錬所全景 昭和12年



静狩金山鉱区権認可後の開鉱式 大正10年頃

### 長万部町の軌跡③

- 1946 昭和21年** 長万部民報創刊。北海道アイヌ協会長万部支部結成  
種馬所を廃し、胆振種畜牧場と改称(昭和24年、閉鎖)
- 1947 昭和22年** 公選による初の町長選  
長万部、静狩、国縫、双葉に中学校と役場分室を設置
- 1948 昭和23年** 北海道支庁設置条例の施行により、渡島支庁の管轄となる  
長万部町警察署と長万部町消防本部が創設  
長万部町農業協同組合設立
- 1949 昭和24年** 長万部信用組合設立  
長万部・静狩・国縫で新漁業協同組合4団体が発足(昭和39年、統合)
- 1950 昭和25年** 道立八雲高等学校長万部分校創立  
(昭和26年、長万部高等学校に格上げ)  
静狩湿原が国の天然記念物指定解除、静狩原野入植受付を開始  
飯生神社例大祭、初の神輿海上渡御を実施
- 1952 昭和27年** 長万部農業協同組合が旭浜に家畜診療所と人工授精所を開設  
自治体警察(長万部町警察署)国家警察に移管、長万部警部派出所に
- 1953 昭和28年** 長万部民報廃刊に伴い、町広報発刊
- 1954 昭和29年** 長万部商工会創立。静狩原野建設工事竣工式
- 1955 昭和30年** 天然ガス試掘事業により天然ガスと温泉が噴出(長万部温泉)
- 1956 昭和31年** 長万部町営温泉浴場開湯(昭和37年、売却)
- 1958 昭和33年** 乳牛保有数一千頭突破を記念し第一回家畜品評会実施
- 1959 昭和34年** 町営ガス供給事業に着手
- 1960 昭和35年** 国民健康保険事業を開始
- 1964 昭和39年** 長万部町営墓地完成



長万部高等学校一期生の卒業 昭和26年



長万部町営温泉浴場 昭和31年

### 長万部町の軌跡②

- 1913 大正2年** 凶作のため生活困窮農家が増加(175戸)
- 1917 大正6年** 静狩の金山に鉱区権認可
- 1918 大正7年** 静狩が長万部村に属す
- 1919 大正8年** 長万部に畜産市場が開設
- 1921 大正10年** 静狩で鰯大漁
- 1922 大正11年** 静狩湿原が国の天然記念物保有地に指定  
長万部商業組合発会式
- 1923 大正12年** 一級町村制施行  
長輪線長万部～静狩間鉄道開通
- 1927 昭和2年** 瀬棚線国縫～花石間鉄道開通
- 1928 昭和3年** 長輪線が全線開通
- 1929 昭和4年** 長万部魚商組合創立  
長万部川が二度氾濫、近隣家屋に被害、長輪線脱線事故
- 1930 昭和5年** 南部陣屋跡に忠魂碑建立
- 1931 昭和6年** 不況と凶作により、浮浪者・欠食児童が増加。農林省水産局によるアイヌ民族のオットセイ猟の完全禁猟化  
アイヌ文化展示施設としてエカシケル(祖先の尊き家)建設
- 1932 昭和7年** 黒松内機関区が長万部に移設。瀬棚線全線開通
- 1934 昭和9年** 長万部大火、99戸が罹災
- 1936 昭和11年** 字長万部149番地に役場庁舎新築
- 1940 昭和15年** 長万部漁業協同組合、フィッシュミール工場建設  
市街地で町内会、集落で部落会の組織化に着手
- 1943 昭和18年** 2月11日、町制施行、長万部町となる
- 1945 昭和20年** 米軍艦載機により空襲。沖縄出身帰農者12戸が来町(緊急開拓)



長輪線脱線事故 昭和4年



イメージキャラクターの活躍（毛がにロードレース）  
平成19年



イメージキャラクターの活躍  
（毛がにロードレース） 平成19年

## 平成元年 ～ 平成16年

**平成の大会併問題で、独立の道を選択。**  
長らく町の発展を牽引してきた鉄道が、昭和末期に廃線や廃駅など相次ぐのと入れ替わるように、北海道縦貫自動車道の開通など町は大きく変貌した。新役場庁舎が完成したのは、平成10年。数年後には「平成の大会併」の議論がスタートし、町を挙げての検討が進められたが、独立路線を選択することとなった。

### 長万部町の軌跡⑤

- 1990 平成2年** 長万部清掃センターが稼働開始。役場で電算システム業務開始
- 1991 平成3年** ふるさと創生事業による人材育成派遣事業が開始  
B&G財団長万部海洋センター利用開始
- 1992 平成4年** 学習文化センター利用開始。長万部町まちづくり総合計画策定  
公共下水道一部供用開始
- 1993 平成5年** 北海道南西沖地震、長万部町にも甚大被害  
開基120年町制施行50年記念式典
- 1994 平成6年** 長万部漁港・国縫漁港完成
- 1995 平成7年** デイサービスセンター運用開始
- 1996 平成8年** 国道5号長万部バイパス開通、ふれあい公園が完成  
あやめ公園/パークゴルフ場利用開始
- 1997 平成9年** 北海道縦貫自動車道長万部I.C.利用開始。資源ゴミ分別収集が本格化
- 1998 平成10年** 現役場庁舎・ふれあい健康センターが完成
- 1999 平成11年** おしゃまんべフェスティバルがおしゃまんべ毛がにまつりに名称変更
- 2000 平成12年** 有珠山噴火による被災者受入、第2次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2001 平成13年** 高齢者福祉センターが完成し運用開始  
北海道縦貫自動車道国縫I.C.、道道長万部公園線ふれあい大橋が開通
- 2002 平成14年** シルバーハウジング（大浜）完成  
リレーポート山越が完成し、可燃ごみの広域処理開始
- 2003 平成15年** 開礎130年・町制施行60年記念式典  
イメージキャラクター決定、現消防庁舎が完成  
北渡島任意合併協議会（長万部町・八雲町・森町・砂原町・今金町）設置
- 2004 平成16年** 北渡島任意合併協議会解散、全国市町村あやめサミットを長万部町で開催  
長万部町・黒松内町合併協議会6月設置、12月（第9回会議）解散



電算化以前の役場窓口（旧庁舎）



有珠山噴火による被災者受入  
平成12年



瀬棚線廃止イベント・今金駅ホーム 昭和62年



瀬棚線廃止イベント・  
国縫駅周辺で見送りする人々 昭和62年

## 昭和40年 ～ 昭和63年

**公共施設の充実が進み、  
高まる暮らしの利便性。**  
昭和30年代から引き続き、上水道や衛生処理場をはじめ、インフラの充実が図られた。昭和50年前後からは、福祉・スポーツ施設や町民センター、町立病院など、人々の暮らしを豊かにする施設も充実していった。地道な誘致活動が実り、昭和62年には東京理科大学の長万部キャンパスが開校した。

### 長万部町の軌跡④

- 1965 昭和40年** 二股温泉の石灰華が北海道指定天然記念物となる
- 1966 昭和41年** 字長万部453番地に町役場新庁舎を新築
- 1967 昭和42年** 山越郡衛生処理組合を八雲町と共同運営で発足（令和2年、解散）
- 1968 昭和43年** 公共上水道供用開始
- 1969 昭和44年** 長万部市街の各区画に通称名をつける。衛生処理場が業務開始
- 1971 昭和46年** 函館営林局が富野に肉用牛生産育成実験牧場を開設（昭和53年、閉鎖）
- 1972 昭和47年** 中央跨線橋、福祉センター完成
- 1973 昭和48年** ごみ処理場が業務開始。長万部町「議会だより」第1号発行  
開基100年町制施行30年記念式典
- 1974 昭和49年** 長万部公園、ファミリースポーツセンター完成  
東蝦夷地南部藩陣屋跡ヲジャマンベ陣屋跡が国指定史跡となる
- 1975 昭和50年** 台風5・6号による豪雨により町内で甚大被害
- 1977 昭和52年** 長万部町史刊行
- 1978 昭和53年** 特別養護老人ホーム長万部慈恵園、老人福祉センター利用開始
- 1979 昭和54年** 第1回町民花見大会開催
- 1980 昭和55年** 町民センター利用開始
- 1981 昭和56年** 長万部高等学校、新校舎へ移転
- 1983 昭和58年** 長万部町立病院が開院  
開基110年町制施行40年記念式典、町木・町花制定
- 1984 昭和59年** 静狩漁港完成
- 1987 昭和62年** 国鉄分割民営化に伴い瀬棚線バス転換・JR北海道発足  
東京理科大学長万部校舎（キャンパス）開校
- 1988 昭和63年** おしゃまんべフェスティバル初開催



温泉と元町を結んでいた中央跨線橋



静狩漁港完成 昭和59年



水柱浚渫（ボーリング）調査安全祈願祭 **令和5年**



冷温泉水（水柱）噴出 **令和4年**



まんべくん一日駅長 **平成23年**



まんべくンを長万部町広報室長に任命  
**平成24年**

平成17年  
～  
令和5年

環境が激変する中、  
新たなまちづくりが進む。  
単独行政路線を歩み始めた長万部では、北海道新幹線の延伸に向け、工事とともに新たなまちづくりが進む一方、地方創生の一環で東京理科大学の力を借りてミニトマト生産も開始、着実に成果を出してきた。長く町民とともに歩んできた東京理科大学では、基礎工学部に代わり、経営学部国際デザイン経営学科の学生が長万部校舎で学ぶこととなった。

## 長万部町の軌跡⑥

- 2016 平成28年** 北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）が開業  
東京理科大学基礎工学部創設30周年記念式典  
シャクシャイン古戦場跡碑除幕式
- 2017 平成29年** 鉄道・運輸機構長万部鉄道建設所開所式
- 2018 平成30年** 先進的アグリビジネス事業発足  
松前神楽が国指定重要無形民俗文化財となる  
長万部町葬祭場を改修  
胆振東部地震、北海道内で大規模停電  
国縫振興開館を新築移転
- 2019 令和元年** 長万部町・黒松内町・豊浦町3町連携会議に関する協定書に調印（はしっこ同盟）  
長万部町生活支援体制整備事業協議体が発足  
シャクシャインロード事業実施
- 2020 令和2年** 各戸に防災ラジオを配布  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、東京理科大学長万部キャンパスにおける基礎工学部の授業実施見送り  
第4次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2021 令和3年** 長万部町地域公共交通活性化協議会が発足
- 2022 令和4年** 町内全域にインターネット光回線整備  
天然ガス試掘坑跡から冷温泉水（水柱）が噴出
- 2023 令和5年** 東京理科大学経営学部国際デザイン経営学科の学生が入寮  
開礎150年・町制施行80年記念式典



はしっこ同盟調印式（左から長万部町長・黒松内町長・豊浦町長） **令和元年**

- 2005 平成17年** 第1回長万部町単独行政運営協議会議開催  
さかえ保育所新築、子育て支援センター設置
- 2007 平成19年** 「3・4・6駅前通」全線開通
- 2008 平成20年** 出前式「移動町長室」を開催  
町と協同組合長万部町建設協会が災害時における協力業務に関する協定締結
- 2009 平成21年** 大中漁港完成
- 2010 平成22年** 第3次長万部町まちづくり総合計画策定
- 2011 平成23年** 東日本大震災  
「インフォまんべ」営業開始  
円空作仏像1体、アイヌ民族衣装4着、丸木舟1艘が町指定文化財となる
- 2012 平成24年** 長万部町で北海道新幹線新函館（仮称）・札幌間建設工事起工式・祝賀会
- 2013 平成25年** 戸籍事務の電算化開始  
長万部町開礎140年・町制施行70年記念式典
- 2014 平成26年** 多目的活動センターあつまんべ利用開始  
町と東京理科大学、災害に関する協定を締結
- 2015 平成27年** 長万部地方創生サミット開催  
長万部町と東京理科大学との地方創生に係る包括連携締結



真冬のピアガーデン、あつまんべで初開催  
**平成27年**



さようなら藤沢駅！ **平成29年**



## 交通の要衝としての150年、そしてこれから。

北海道新幹線の整備計画が決定してから半世紀余り、令和12年度(予定)に北海道新幹線の新函館北斗～札幌間が延伸し、長万部駅が誕生する。かつて「鉄道の町」として栄えた歴史を振り返るとともに、新幹線駅のある新時代のまちづくりに迫る。



## 令和12年度、北海道新幹線 新函館北斗～札幌間が開業予定。

約40年越しの計画がついに  
正式認可

北海道新幹線の青森～札幌間の整備計画が決定されたのは、昭和48(1973)年11月だった。日本列島を高速道路・新幹線などの高速交通網で結び、地方の過疎化と都市の過密化を同時に解決しようという日本列島改造論が提唱されていた時代である。このとき青函トンネルはまだ開通していなかった(昭和63年開通)。

新青森～新函館北斗間は、平成17(2005)年4月に工事実施計画が認可され、着工した。そして、新函館北斗～札幌間は平成24年6月に工事実施計画が認可された。同年8月には沿線の中間地点である長万部町で、国土交通大臣や知事、白井捷一町長(当時)はじめ約200人が出席し、起工式・祝賀会が盛大に行われた。39年もの歳月を要して、ようやく路線全線の完成に向けて大きく前進することとなった。

さらに平成27年1月、政府・与党の申し合わせとしては令和17(2035)年度末予定だった新函館北斗～札幌間の延伸を5年前倒して令和12年度末とすることを決めた。

平成28年3月26日、北海道新幹線新青森～新函館北斗間が開業し、東北新幹線と合わせ東京から最短3時間57分で繋がることとなった。

平成24年6月に認可された計画では、長万部駅の大部分が地平線路の予定と

なっていた。しかし、東日本大震災(平成23年)の教訓から、津波時の防災という視点では課題が残る。北海道と当町の要請を踏まえ再検討した末、平成29年6月、正式に高架化が決まり、地面から新幹線線路までの高さ約14mの高架駅に変更となった。

長万部から東京へ、  
約4時間半で

北海道新幹線は新函館北斗の後、新八雲駅(仮称)、長万部駅、倶知安駅、新小樽駅(仮称)、そして札幌駅という順になる。総区間は212km。豪雪地が多いことなどから、約80%がトンネルとなる。長万部町区間では、約30kmのうち沿線で最多の約22kmが地上(明かり区間)を走ることとなる。ここで乗客は噴火湾の景色を見ることができるよう。

現在運行中の北海道新幹線(新青森～新函館北斗間)の最高速度は時速260kmであるが、JR北海道は、時速320kmでの走行を実現し、札幌延伸時に東京～札幌間4時間半の運行を目指すとしている。

時速260kmなら長万部から札幌まで39分(現在約2時間20分)、新函館北斗まで25分(現在約1時間20分)、そして東京まで約4時間半(現在約6時間)となる(※)。時速320kmへの高速化が実現すれば、長万部から東京間はさらに早く結ばれることとなる。

### 北海道新幹線の歩み

- 1973.11 北海道新幹線整備計画決定
- 1988.3 青函トンネル開業
- 1998.2 駅・ルート概要公表
- 2005.4 新青森～新函館北斗間、工事実施計画認可
- 2005.5 新青森～新函館北斗間、起工式
- 2010.12 東北新幹線全線開業(東京～新青森)
- 2012.6 新函館北斗～札幌間、工事実施計画認可
- 2012.8 新函館北斗～札幌間、起工式
- 2015.1 開業時期を2035年度から2030年度末へ前倒し
- 2016.3 北海道新幹線(新青森～新函館北斗)開業
- 2017.6 新幹線長万部駅の高架化が決定
- 2019.1 内浦トンネル(静狩工区)掘削開始
- 2020.11 豊野トンネル・国縫トンネル掘削開始(全てのトンネル工事開始)
- 2022.3 新幹線高架橋工事のため、中央跨線橋(元町～温泉)が通行止めに
- 2022.11 国縫トンネル他工区の貫通式



新函館北斗～札幌間、建設工事起工式(平成24年)



豊野トンネル貫通・親子見学会(令和5年)

※国土交通省鉄道局「収支採算性及び投資効果に関する詳細資料」(平成24年)に基づく。

# 鉄道の町から モータリゼーションの時代へ。

昭和初期から中期にかけて鉄道の町として大いに栄え、マイカーブーム以降は国道沿いのドライブイン街が全国的に有名となり、さらに平成期には高速道路網が敷かれた長万部町。交通の要衝としてにぎわってきた町の変遷を振り返る。

## 3路線が走る鉄道の要衝

長万部に初めて蒸気機関車による鉄道が登場したのは、明治36（1903）年のことであった。北海道鉄道株式会社の計画により函館〜小樽間の鉄道（後の函館本線）の森〜熱帯間が開業し、国縫駅、長万部駅、二股駅ができた。翌年、同線は全通し、蕨岱、紋別（中の沢）に停車駅ができた。

運送業や宿泊業を営む者が多かった長万部では、当初鉄道の開通を歓迎しない住民も多かった。実際、一時的に不況に見舞われたが、やがて鉄道は長万部に新たな活力を生み出していくこととなった。明治40年、政府は北海道鉄道を買収、国有化した。

大正12（1923）年、長輪線（後の室蘭本線）の長万部〜静狩間が開通した。静狩駅から約1km北方に、大正期から静狩金山が開かれ、鉄道がその輸送に貢献し、静狩の街に繁栄をもたらした。

り、町の特産品の一つになった。

昭和20〜30年代は、長万部における鉄道の最盛期である。人々の足として生活物資の輸送手段として鉄道の果たす役割は非常に大きかった。また、長万部機関庫があったため、町民には国鉄職員が多数を占め、ピークとなる昭和40年には、町内だけで1300人を超える職員を数え、家族も含めれば相当数に及んだ。鉄道職員の中から町議会議員が何人も選出されたのもこの時代である。

しかし、昭和40年代以降、自動車の大衆化が進むとともに、昭和45年には、国鉄の合理化が始まり、各路線の蒸気機関車は相次いで姿を消した。町の人口も昭和40年の1万6894人をピークに減少傾向に向かった。

昭和62年3月、瀬棚線が廃止となり、バス転換された。この年、国鉄が民営化された。昭和57年には国鉄機関庫総合庁舎が町内に建設されていたが、国鉄民営化とともに職員の異動も進み、平成4年、長万部機関庫が廃止された。同年、町内では長万部駅以外の全ての駅が無人化された。

## 自動車交通の大衆化と 国道の変遷

昭和20年代半ばころ、長万部町内には自動車はわずか数台しかなかった。しかし、自動車の大衆化とともに道路環境の改善も進み、昭和40年代初期までに長万部付近の幹線国道はほぼ舗装を完了した。

長万部町内を走る国道は、国道5号、37号、230号の3本である。国道5号は、函館市から後志管内を経由して、札



長万部駅構内からの眺め（昭和26年）

昭和になると、長万部は鉄道の町として様相を呈し始めた。

昭和2（1927）年、瀬棚線の国縫〜花石間が開通。翌3年には、長輪線が全線開通、そして瀬棚線は7年に全線が開通した。こうして長万部は、3路線が走る鉄道の要衝として存在感を増した。この年、黒松内にあった機関庫が移転し、長万部機関庫となり、長万部といえば鉄道と言える時代が到来した。

## 人流・物流の大動脈、 そして国鉄職員の町

戦後の昭和25（1950）年には、長万部駅で駅弁「かにめし」の販売が始ま

幌市中央区に至る実延長301kmの一般国道である。国道37号は、長万部町で5号から分離し、室蘭市に至る実延長約84kmの一般国道。230号は、札幌市からせたな町へと至る実延長約148kmの一般国道で、国縫から西へ分岐する。

舗装が進み走りやすくなった国道は、昭和40年代のモータリゼーションの進展とともに急速に自動車交通の比重を高めた。昭和40年代半ばまでに、当時本町通を併用していた国道5号では駐車禁止措置、歩道車道の分離などの措置が取られた。こうした中、市街地の不便を避けて、大浜、中の沢の国道沿いにドライブイン街が出現することとなった。往時にはいろいろな看板のドライブインが軒を連ね、全国的にも有名な存在となった。

市街地を避け、噴火湾沿いを走る国道5号長万部バイパスが全線開通したのは、平成12（2000）年のことであった。

一方、平成9年には道央自動車道の虻田洞爺湖IC〜長万部IC間が開通、さらに13年には長万部IC〜国縫IC間が開通した。長万部ICから札幌南ICまで約2時間15分、大沼公園ICまでを約1時間で結ぶ。

自動車の流れは、急速に国道5号から道央自動車道へと移り、ドライブイン街は往時の勢いを失った。令和の現在でも営業を続ける少数の店と、かつての栄華の名残を見せる空き店舗群が昭和の香りを漂わせるレトロスポットとなっている。

## 長万部をめぐる鉄道と道路の歩み

- 1891** 函館〜札幌（定山溪経由）新道開通
- 1903** 森〜熱帯間鉄道が開通、二股・長万部・国縫の各停車駅が開業
- 1923** 長輪線長万部〜静狩間が開通
- 1927** 瀬棚線、国縫〜花石間開通
- 1928** 長輪線全線開通
- 1932** 瀬棚線全線開通、長万部機関庫設置
- 1934頃** 長万部市街地国道幅員拡張
- 1952** 1級・2級国道指定。現在の5号・37号の基本ルート確立
- 1959** 長万部小学校〜役場（現NTT）前の舗装完了
- 1962** 長万部市街〜国縫間の舗装完了
- 1965** 国道の級別区分廃止
- 1966** 国道5号線市街地付近、追越・駐車禁止
- 1967** 国道37号線、静狩・豊浦間29kmに9か所のトンネルを掘削、現ルート完成
- 1969** 国縫〜瀬棚間が国道277号に昇格
- 1970** このころから国鉄合理化開始  
国道5号線、全線舗装完了
- 1974頃** 国道277号線国縫〜瀬棚間、全線舗装完了
- 1981** 国鉄赤字40線廃止案発表
- 1982** 国道277号線国縫〜瀬棚間を国道230号に編入  
国鉄機関庫総合庁舎完成

- 1984** 瀬棚線の廃止が決定
- 1987** 国鉄分割民営化  
小駅の無人化が進む
- 1989** 国道5号長万部バイパス着工
- 1992** 長万部機関庫廃止  
国縫駅の簡易委託廃止により、町内全ての小駅が無人工
- 1997** 道央自動車道虻田洞爺湖IC〜長万部IC間が開通
- 2000** 国道5号長万部バイパス全線開通
- 2001** 道央自動車道長万部IC〜国縫IC間が開通  
長万部公園と国道5号を結ぶふれあい大橋が開通



国縫IC完成（平成13年）



舗装された市街地（昭和40年代）



舗装中の市街地（旧国道）（昭和37年）



ドライブイン街（平成初年頃）



道央自動車道開通式（平成9年）



長万部駅前（昭和40年代）

# 新幹線開通と 新時代のまちづくり。

北海道新幹線新函館北斗～札幌間の  
実施計画認可に伴い、長万部町では新  
幹線開業に向けたまちづくりや新しい  
長万部駅舎に関する計画がいち早く動  
き出した。徐々に明らかになりつつあ  
る駅舎デザインを中心とする今後のま  
ちづくりについて紹介したい。

全高約28mの壮観、自由通路で  
東西を連結

平成24（2012）年7月に北海道新  
幹線新函館北斗～札幌間の実施計画が  
認可されると、町は25年度から26年度  
まで住民公募による「新幹線まちづくり  
ワークショップ」を開催した。さらに新  
函館北斗～新青森間が開業した平成28  
年3月、町は「新幹線を核としたまちづ  
くり実行計画」、続く29年3月には「新  
幹線駅周辺整備計画」を策定した。

平成28年、新幹線駅周辺整備を目的  
とし、民間の有識者や一般公募で集まっ  
た町民で構成する「まちづくり推進会  
議」を設置し、役場内の特別職と管理職  
で構成する長万部まちづくり推進庁内プ  
ロジェクトチームと連携し、「長万部ま  
ちづくりアクションプラン」（同30年）  
を策定、その後も計画の深化を続けてい  
る。

新幹線駅は現在の長万部駅よりも西

区画整理事業を実施し、新たな市街地  
が形成されることになる。駅舎も含めて  
市街地周辺の景観は、一変することだろ  
う。

## 長万部高校生参加の 駅デザイン構想

令和3（2021）年7月から新幹線  
駅舎のデザインコンセプトづくりが始  
まった。まちづくり推進会議に駅デザイ  
ン検討委員会を設置し、7人の長万部高  
校生が参加、黒谷心優さんが委員長を  
務めた。こうした委員会に高校生が主力  
として参加するのは極めて異例なこと  
で、当町における新幹線まちづくりの大  
きな特色となっている。

令和4年3月、同委員会は町に次のよ  
うな駅デザインコンセプトを答申した。

「湯けむり香る噴火湾、人と時代の交  
差点」

具体的には、このコンセプトをベース  
にさらに次の3案に分かれる。

「テーマ①」汽笛が響く日だまりの温泉  
駅（北海道の自然をイメージしたレトロ  
な外観・古き良き長万部町の歴史を感  
じさせる雰囲気駅舎）

「テーマ②」開放感あふれる次世代に繋  
がる駅（サステナブルな駅舎の構築・ガ  
ラス張りの中に道南の木材を活用した  
駅の作り）

「テーマ③」みんなまんべんなくほか  
が、緑いっぱい北の温泉駅（懐かしさを感じ  
る景色を強調した駅舎デザイン・温泉を  
イメージした温かな落ち着く雰囲気  
の駅舎）

町は、こうしたデザインコンセプト要  
望書を、鉄道・運輸機構北海道新幹線

側（山側）に設置される。従来、駅と線  
路により街の東西が分断されていたが、  
高架化と自由通路の設置により、東西の  
往来が容易になる。

駅の全高は約28mの3階建てで、一般  
的なビルの6～7階に相当する。駅の長  
さは263mの予定だ。

自由通路の南側が新幹線駅舎、北側  
が滞留空間で町が管理するエリアとなる。  
西口には西口駅前広場とアクセス道路  
を新設する。自由通路をわたって現在の  
駅舎の東側（海側）の部分は、東口昇降  
棟や東口駅前広場、立体駐車場を核と  
した商業複合施設などで構成される。  
東口から続く現在の市街地エリアは土地



駅デザイン検討委員会委員長より  
町長へ駅デザインコンセプトの答申(令和4年)



駅デザイン検討委員会参加高校生の集合(令和4年)



駅デザイン検討委員会(令和4年)



駅デザイン検討委員会参加高校生による研修  
(八戸市で滞留空間を視察)(令和4年)



駅デザインA案



駅デザインB案



駅デザインC案

図案提供:JRTT鉄道・運輸機構

# 「長万部発ホタテ貝ブランド」湾宝」に込めた想い。」

古くからホタテはアイヌ民族の伝統的生活に利用されてきた。現在、噴火湾でもトップクラスの水揚げ量を誇る長万部のホタテ養殖は町の自慢だ。突然の大量死と苦難の復活を経て新ブランド「湾宝」として再生した現在進行形のストーリーを紹介したい。

## アイヌ文化とホタテ

かつてシャクシャインの戦いの舞台ともなり、また、アイヌ語由来の地名が数多く残されている長万部町。長万部という地名はアイヌ語のオ・シャマンベが由来で、「カレイのいるところ」という意味を持つと伝承されてきたし、明治期ころまで、長万部のアイヌ民族はオットセイ漁や捕鯨の伝統技術を継承していた。昭和6（1931）年から長万部村長藤原覚因を会長として「エカシケル」（祖先の尊き家）保存会」が設立され、地域のアイヌ文化伝承者らが主体となり昭和12年ころまで旭浜地区にアイヌ文化展示施設「エカシケル」を置いていたという記録も残る。長万部町は歴史的にアイヌ文化、とりわけ海洋文化と深く関わってきたと言えるだろう。

現在の長万部の主要産業である水産業の中心となるのは、ホタテ貝養殖だ。

漁協組合員のほとんどがホタテ貝養殖業に従事し、総漁獲高の約9割を占める水揚げ実績となっている。長万部町では、代々アイヌの人たちにホタテ漁師が多く、現在でも町のホタテ漁師の約6割に及ぶほどだ。

アイヌの人たちは、かつて、夜になると「ラッチャコ」と呼ばれる、三つ股の

木にホタテ貝の貝殻を乗せ、魚油に灯を灯すランプを生活用具として使用していた。生活の糧としても生活用具としても、ホタテと密接に関わってきた歴史がある。

## ホタテの危機

近年、そんな長万部のホタテ貝養殖業が危機に見舞われた。

平成28（2016）年ころから、ホタテ貝が大量に死んでしまう事態となったのである。令和元（2019）年には、ついに水揚げ量が通常の1割にまで激減してしまった。ホタテ貝の大量死は、噴火湾全般で共通していた状況でもあった。原因を探り、再びホタテ貝養殖を安定化させることは、長万部町のホタテ漁師にとって必要不可欠である。

そこで、町は令和元年度、ホタテ貝養



殖の稚貝へい死の調査研究事業により水揚げ量の安定化を目指すとともに、アイヌ文化を取り入れたホタテ貝のブランド化を目指し販売を促進する「長万部町アイヌ政策推進事業」（アイヌ政策推進交付金事業）に着手した。

## 実現した水揚げ量の復活

漁業者を中心に、長万部町アイヌ政策推進事業に関わる人々による復活を目指すプロジェクトが始まった。

長万部のホタテ貝養殖は、海面にロープを張る垂下式。ホタテ貝の一部に穴を開け返しが付いたピンを通し、長いロー



01.02. まるごとうまいもん祭り

03. パービーさんアンバサダー任命

04. オータムフェスト2022

## ブランド化へ向けた迅速な動き

浦に一つ一つぶら下げカーテンのようなスタイルで海中に垂らす「耳吊り」だ。この方法なら、自然の海の海面近くで豊富なプランクトンをたっぷりと吸収し、太陽の光も十分に浴びて育つため、厚くて甘く、アミノ酸・タウリン・グリコーゲンたっぷりの貝柱に育つ。垂下したまま育つので砂噛みもないから砂抜きが必要もない。

試行錯誤の末、噴火湾の中でも真っ先に水揚げ量の復活を達成したのが、長万部だった。

令和3（2021）年度の水揚げ量は約1万6000トン、生産額約47億9000万円と拡大した。

ホタテ稚貝の大量死の正確な原因解明には至らなかったが、復活の一番の要因は「人間優先の作業からホタテ貝の気持ちになって作業を行ったことが大きいのではないか」と考えられている。

こうして復活を遂げた長万部のホタテ貝をブランド化するために令和4（2022）年に設立されたのが、「長万部ホタテ貝アイヌブランド化推進協議会」。同年3月、長万部産養殖ホタテ貝のブランド名を決める町民投票（6候補を行ったところ、全体の46・1%の得票で選ばれたのが「湾宝」（わんぼう）だ。由来は、噴火湾の宝。そこには、長万部町民の思いが乗せられている。

同年7月28日に長万部漁港内で、当町にゆかりのあるタレントのバービーさん（お笑いコンビ「フォーリンラブ」）を招き、湾宝アンバサダーとして任命した。翌29日には、札幌市内で湾宝ブランド化プレスリリースイベントを開催し、メディア関係者へのPR活動会見を行い、湾宝の美味しさの秘密やブランドストーリーを披露した。登壇した木幡町長は



04



02

「長万部の『湾宝』を世界の『湾宝』にしたい」と宣言。また、8月8日を「湾宝の日」とすることを発表した。

以降、9月に「さっぽろオータムフェスト2022」「GOOD LIFE FESTA 2022」（東京ビッグサイト）、10月に三井アウトレットパーク札幌北広島での「味覚まつり」に出店。また、各種の情報誌等にも紹介された。

11月には、北海道内市町村のPRソングで知られ、湾宝大使でもあるハンバガーボーイズが手がける楽曲「湾宝ー長万部」がリリースされ、配信がスタートした。

令和5年2月、サッポロファクトリーを会場に「長万部まるごとうまいもん祭り」を開催。2・5日のホタテが約2時間で完売する大盛況となった。

湾宝は、長万部町民の夢を乗せて、順調にブランド化に向けて歩み始めた。

# 13市町が協力、シャクシャインを顕彰する慰霊旗リレー。――

シャクシャインの戦いから350年後の令和元年、長万部町は多くのゆかりの市町と連携してシャクシャインロード事業を企画した。シャクシャインの戦いを振り返るとともに、事業のメインである慰霊旗のリレーの様子をたどる。

## シャクシャインの戦いとは？

令和元（2019）年は、「シャクシャインの戦い」（1669年）によって、アイヌ社会の有力な指導者だったシャクシャインが没して350周年。

シャクシャインの戦いとは、どのようなものだったのか。簡単に振り返っておこう。

寛文9（1669）年6月、和人との不平等な交易に怒りをつのらせていたシャクシャインがアイヌモシリ（※）全域に抗戦を呼びかけると、呼応したアイヌが各地で蜂起した。また、抵抗軍が編成され、松前藩への抗議のため軍事蜂起した。これが、幕府をも揺るがすこととなったシャクシャインの戦いの端緒となった。

7月末、クンヌイ（国縫）に達したシャクシャイン軍は、国縫川を挟んで松前藩軍（以下、藩軍）と対峙した。シャク

クシャイン軍の武器は毒矢、対する藩軍は鉄砲。荒天やアイヌの奇襲作戦により戦いは拮抗するが、武力に劣るシャクシャイン軍は後退を余儀なくされた。オシヤマンベからじりじりと後退し、最終的には本拠地シベチャリ

（現新ひだか町）まで退いた。シャクシャインはピボク（現新冠町）で松前藩との和睦の酒宴に応じるが、藩の謀略により毒殺されてしまい、戦いは収束に向かった。

長万部町は、平成28（2016）年10月、国縫川沿いにシャクシャイン古戦場跡碑を建立した。そこには「この戦いは、先住民族アイヌと中央政権との主従関係を意味しない。それは19世紀初頭から2度の幕府直

轄を経て、明治期からの近代法体系の中で漸次形作られたものである。さらに戦いの勝ち負けは、生き方の良し悪しを意味してはいない。この地に眠る両軍犠牲者の御霊を鎮め、明日を生きる教えの礎として、ここに碑文を刻す」と刻まれている。

※アイヌモシリ：アイヌ語で人間の大地。もしくはアイヌの大地、国、北海道を指して使われることが多い



01



04



03

その後、いよいよ慰霊旗リレーがスタート。国縫からあつまんべまでの約10km、町内外からの参加者が慰霊旗を運びながら歩いた。そこから有志が引き継ぎ、さらに静狩漁港まで慰霊旗を運んだ。静狩漁港から豊浦漁港までは、史実を踏まえた洋上リレーを実施。クルーズ船によって静狩小学校生徒7名と慰霊旗を運び、豊浦町礼文華地区住人らと引継式を行った。

以降、豊浦町、洞爺湖町、伊達市、室蘭市、登別市、白老町、苫小牧市、厚真町、むかわ町、日高町、新冠町へと慰霊旗を繋ぎ、9月23日、ゴールである新ひだか町真歌公園にたどり着いた。合計240km、約320人が徒歩や舟で繋いだ慰霊の道程であった。

ゴール後に行われたシャクシャイン法要祭では、長万部町、新ひだか町の両町民が喜びを分かち合った。事業を記念し

## シャクシャインの戦いをたどる慰霊のリレー

令和元（2019）年、長万部町はシャクシャイン没後350年記念事業を計画した。

町は国縫にあるシャクシャイン古戦場跡碑前からシャクシャインの本拠地のあった新ひだか町までの沿岸部自治体に、慰霊の意を表す巨大パッチワーク旗の制作や旗リレー、歴史講演など、さまざまな催しの事業連携を呼びかけた。これが、シャクシャインロード事業で



02

慰霊旗1枚を新ひだか町シャクシャイン記念館に寄贈した。

また、長万部町では慰霊旗のリレーに先立つ同年8月25日、歴史講演会「シャクシャインの戦いの中のクンヌイ決戦」（講師：市毛幹幸氏）を開催した。クンヌイの位置付けを検討するとともに、アイヌ社会の戦いのあり方、クンヌイ決戦の歴史的意義を考える内容であった。



05



06

01. 国縫～長万部間の徒歩リレー

02. 長万部小学校でアイヌ文様作りのワークショップ

03. 安全祈願祭

04. 静狩～豊浦間の洋上リレー（静狩小学校生徒が参加）

05. 大浜～長万部間は子どもたちもリレーに参加

06. 歴史講演会（市毛幹幸氏）

# 地方創生で、長万部ブランドを発信する。――

少子高齢化・人口減少を打開する切り札として期待される地方創生。中でも全国から注目を集めているのが、長万部町と東京理科大学が協力して推進している先進的アグリビジネスのプロジェクトだ。ブランド化に成功し、雇用創出も成し遂げた当町の地方創生の姿を紹介したい。

## 地方創生とは？

平成26（2014）年5月、「2040年までに896の自治体が消滅する可能性」を明らかにした日本創生会議による発表は、日本中に大きな衝撃をもたらした。少子高齢化の進行が行き着く先にある危機が現実のものとして捉えられたのである。

同年9月、政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、「地方創生」を政策としてスタートさせた。各地方自治体が将来の人口推計を踏まえ、地方版総合戦略を立案、その取り組みに国が各種の支援を行い、地域の活性化を目指すという事業である。こうして、全国各地地方創生のプロジェクトが推進されることとなった。

長万部町もかつて昭和40（1965）年のピーク時には約1万6000人の人口があったものの、平成27年には5926

人（国勢調査）で、さらに国立社会保障・人口問題研究所によると令和27（2045）年には2750人と、半減以下と推計されていた。



02

## 理科大と協力、先進技術を用いた植物工場のプロジェクト発進

長万部町の地方創生プロジェクトのきっかけは、平成27（2015）年9月に開催した「長万部地方創生サミット」であり、ここで「長万部町と東京理科大学との地方創生に係る包括的連携協定」を締結



01



03

**長万部ブランド「ENRICH MINI TOMATO」**  
先進的アグリビジネスモデルの枠組みでトマト栽培を事業化、成功させるためには、付加価値が必要となる。

平成29（2017）年9月、地方創生コンソーシアムを法人化し、長万部町の地方創生活動全般を担う組織として、一般社団法人北海道おしゃまんべ、11月には先進的農業に関する事業会社として長万部アグリ（株）を設立し、事業を実施する基本的な枠組みを整備した。

平成30年、トマトハウスが本格稼働。（株）プラントライフシステムズが開発した栽培システム「トマトのKIBUN」を活用した循環型水耕栽培を実施している。これは一般的なトマト栽培と

異なり、水を絞ることなく、アルカリ培地の下で味の濃い美味しいトマトを生産する新しい農法だ。

さらに、長万部の特産であるホタテ貝殻を町内工場で焼成したものなど、天然の炭酸カルシウム培地を土の代わりに使用する。強いアルカリ性が作用し、甘さと栄養を生み出す。

こうして開発されたミニトマトは「ENRICH MINI TOMATO」と命名された。「人々を豊かにするトマト」という意味を込めた。試験栽培を経て、ハウスの1棟目を建設し、量産体制を構築し、首都圏に向けて営業活動を活性化させた。同年、2棟目のハウスを自主財源により完成させるなど、生産体制を拡大させた。

一方、再生可能エネルギーの活用については、平成30年度から太陽光発電を、さらに令和元（2019）年秋からは蓄電池も導入し、作業場電力に活用した。また、令和2年初頭には、町の温泉熱を利用し、熱交換を通じて温めた真水をビニールハウスに循環させる設備を導入し、光熱費のコスト削減に努めることとした。都内や札幌でのイベント出品や営業活動を行うことで、百貨店やレストランをはじめ取扱店は徐々に増えていった。また、平成30年度からは、長万部町のふるさと納税返礼品にも採用。さらにENRICH MINI TOMATO 100%でつくったジュースも開発した。

令和元年度で国の交付金や町の補助金は終了し、2年度からは自立運営がスタート。令和5年現在、長万部アグリに従業員は7人を数え、順調に雇用増が進んだ。

したことがあった。

翌月の「長万部町人口ビジョン」「長万部町創生総合戦略」策定を経て、町は東京理科大学（以下、理科大）と協力し、「東京理科大学、長万部町、事業コンソーシアム」の連携による再生可能エネルギーを活用した先進的アグリビジネスプロジェクトを発進させた。観光業や農業などのリソースを持つ長万部町と応用生物・応用科学・情報工学などさまざまな研究成果を持つ理科大が協力し、地域活性化を目指すものである。このように大学と町が協力して地方創生プロジェクトを実施するのは極めて珍しい。

このプロジェクトは内閣府から平成27年11月に地方創生先行型交付金、翌4月に地方創生加速化交付金、さらに29年度から令和元（2019）年度まで地方創生推進交付金に採択された。

プロジェクトでは、理科大の事業会社である東京理科大学インベストメント・マネジメント（株）と町・事業に協力する企業などで事業コンソーシアムを構成し、再生可能エネルギーなど先進技術を用いた植物工場による野菜生産を行うこととした。

プロジェクトでは、長万部町内に試験

ENRICH MINI TOMATOはその美味しさが評価され、令和2年2月、格付けジャパン研究機構の総合評価で、データプレミアムNO.1格付け認証を受賞した。また、ジュースは令和5年2月、味や品質管理に優れた道産加工品を認定する「北のハイグレード食品2023」（道主催）にも認定されるなど、すっかり長万部町の特産品として定着し、さらなる飛躍が期待されている。



05



04

01. エンリッチミニトマト

02. トマトハウス（長万部アグリ（株））

03. ハウスでの栽培風景

04. 地方創生サミット（中央：石破地方創生大臣）

05. 長万部小学校の給食に寄贈（令和5年）

# 多様な連携・協力を築いた歴史と国際デザイン経営学科の発進。――

令和5年4月、東京理科大学北海道・長万部キャンパスに、4年ぶりに学生が戻ってきた。経営学部国際デザイン経営学科1年生の約130人。昭和62年に同キャンパスが開校されてから36年。町と大学の関わりを振り返るとともに、新たな時代の幕開けを見よう。

## 長万部は第2の故郷

昭和40年代をピークに北海道の鉄道輸送が急速に縮小し、鉄道の町として発展してきた長万部町は軌道修正を迫られ、西田君雄町長（当時）は、まちづくりの長期展望、企業誘致などを模索し始めていた。

同じころ、東京理科大学（以下、理科大）では「自然を尊重する豊かな人間性と国際感覚を身につけた21世紀を担う技術者の養成」を目指し、その適地を探していた。理科大のある理事が、偶然長万部に立ち寄る機会があり、西田町長と面会。理科大の構想や当町の過疎化という課題が話題になった。両者ともに「理科大の構想に自然豊かな長万部が適するのではないか」と考えたのだ。

この出会いを機に西田町長と理科大との協議が始まり、数



01

## 教育・文化・産業など多彩な連携

町と理科大の関わりは年を経るごとに深まった。長万部町の教育やまちづくりに関わる委員会の多くに大学の教職員が学識経験者として参画し、地域に貢献している。近年では、毛ガニの完全養殖に向けた研究も進められている。

平成3（1991）年から29年度まで、数学者の榎本一之先生と学生有志による数学学習サークル「ピタゴラス」が、榎本先生の退官まで続けられた。小学生から高校生まで参加し、町内の多くの子どもが数学の楽しさを教わった。平成13年から令和元（2019）年度まで、大学生と町民が音楽を通じて交流を図る「ハートフルコンサート」を長万部キャンパスエソール会館で行った。

平成19年度から、外国人英語教員が町の小中学校に派遣され英語の授業を行った。22年度には、長万部高校1年生



03



04

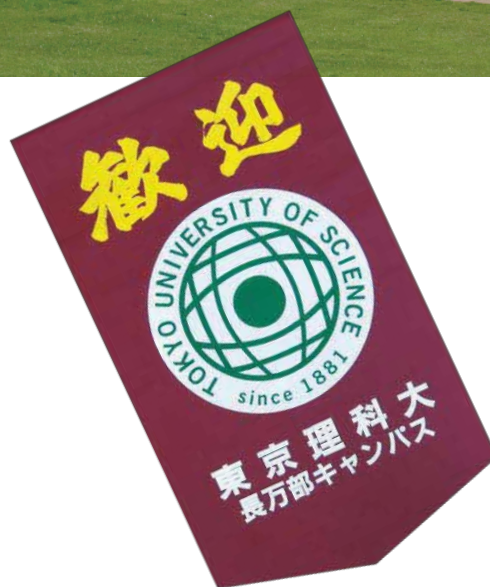
を対象に高大連携・体験模擬授業を実施。23年には、町教育委員会主催で町内小学生（3～6年）を対象に「わくわく体験塾おもしろ科学実験」を長万部キャンパスで開催、講師を務めたのは大学生10数人であった。24年には、長万部キャンパスが企画した町民向けの「プラウン先生とお茶をしながら英会話」がスタート。

平成28年、長万部キャンパスが開設30周年を迎え、8月中の4日にわたって記念イベントが行われた。30年間の歴史を振り返るとともに、進行中の地方創生に向けて「長万部地方創生サミット」も開催された。石破茂地方創生大臣が参加し、地方創生のあり方について講演するとともに、理科大の関連会社から町の資源を活用する新型アグリビジネス構想が発表された。サミットでは、「長万部町と東京理科大学との地方創生に係る包括的連携協定」の調印式も行われた。

年に及ぶ現地調査の末、昭和60（1985）年、長万部キャンパスの開設が決定した。

昭和62年4月、新設の基礎工学部1年生277人を真新しい長万部キャンパスに迎えた。学生たちは1年間を全寮制で生活しながら長万部で過ごす。町では寮で使用する温泉を掘削し、入寮にあたっては、花火を打ち上げ、商店街を歓迎塔や看板、ステッカー、ちょうちんで飾り、大勢で歓迎した。入寮式典終了後には、農協や町商工会が中心になって長万部産のホタテやジャガイモ、搾りたての牛乳でもてなした。

ある1期生は「都会では体験できないすばらしいことを数多く体験し、学んだ。その一つに、町の人々との交流があった。



05

## 4年ぶりに長万部キャンパスが再開

理科大における学部・学科の再編に伴い、令和3（2021）年度から長万部キャンパスは名称を北海道・長万部キャンパスとして、基礎工学部に代わって経営学部国際デザイン経営学科1年生（定員120人）、令和4年度から理工学部国際コースの留学生80人に加え、合計で200人が全寮生活を送る予定であった。

しかし、令和2年春、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、理科大は長万部町での新入生受け入れを見送った。コロナ禍は長引き、令和3年、4年も町で新入生を迎えることはかなわなかった。また、令和3年、理工学部国際コースの長万部キャンパスへの設置は取りやめとなり、留学生を迎える計画は中止された。こうした苦渋の決断の中にあっても、大学では老朽化した学生寮を改修するなど、着々と準備を進めた。

令和5年4月、長万部キャンパスが4年ぶりに再開され、132人の経営学部



02

我々は大学や町が主催した行事のほとんどすべてに参加した。そしてその都度町の人々と親睦を深めていった。写万岳登山、産業まつり、農作業、学寮祭など、その他いろいろな行事で接した町の人々は、明るく、親切で、心よく我々を受け入れてくれた」（『SPES NOVA』新しい希望）と書く。学生たちは、当町最大のイベント「おしゃまんべ毛がにまつり」の運営にもボランティア参加する。1年の最後には、「理科大生を送るつどい」を催し、ともに別れを惜しんだ。長万部での生活を終える際の学生アンケートには例年9割以上が満足と回答するなど、キャンパスとしての存在価値も高まった。

国際デザイン経営学科1年生が入寮した。同学科は、「デザイン表現のスキル」「デジタル技術の基礎知識」「異文化への対応力」の3つを柱にしてインベシヨン人材の育成を目指す。町のよりよい未来を構想する「コ・デザインプロジェクト」なども行われることとなり、キャンパスから街中へ出て、町民と交流し地域活動などを企画する学生たちの姿が見られ始めている。

これから始まる町と理科大の新たな連携が期待される。



06



07

01. 東京理科大学北海道・長万部キャンパス  
02. シャクシャイン古戦場跡碑の見学  
03. 第1回目のわくわく体験塾（平成23年）  
04. 包括的連携協定調印式（平成27年）

05. まんべ君の授業風景  
06. コ・デザインプロジェクトの成果発表  
07. 理科大生来町の日（令和5年）

東日本大震災という未曾有の巨大地震をはじめ、近年、日本は数多くの自然災害に見舞われている。私たちの暮らしは、災害リスクと共生しつつ成り立っている。長万部もまたその例外ではない。町が直面した平成の災害と防災の歩みを振り返る。

## 北海道南西沖地震

平成5（1993）年7月12日午後10時17分に発生した北海道南西沖地震は、奥尻島の北西を震源地とするマグニチュード7.8の巨大地震で、町では推定震度6を記録した。

就寝前のくつろぎの時間に襲った激しい揺れ。食器類やガラスの破損、家具や壁、塀の倒壊など、人々は身を守るのが精いっぱい。液化化現象にも見舞われ、停電、断水、ガス供給停止、道路の陥没などライフラインが寸断された。直ちに設置された災害対策本部は、被害調査や生活水の確保、カセットコンロの配付などに奔走した。

破損家屋は約500戸（うち全壊6戸）、公共施設を含めた被害額は50億を超えた。当時の町の当初予算に匹敵する額というから、その被害の大きさがわかる。



## 有珠山噴火

平成12（2000）年3月の有珠山噴火は、町への直接的な被害はなかったものの、避難民の受け入れが焦点となった。27日から火山性地震が頻発し、29日には周辺市町村に避難勧告が出されるなど、早くから警戒体制が敷かれた。30日、町は消防署員4人とタンク車1台を現地に派遣。31日午後1時10分、有珠山は23年ぶりに噴火した。

虻田町長からの避難者受け入れ要請を受け、スポーツセンターや福祉センターなど、12施設に避難所を開設。庁内に災害対策本部を設置し、避難者受け入れはピーク時の4月3日、1316人に達している。町立病院では、虻田町（現洞爺湖町）内の病院や避難所から約40人の入院患者を受け入れた。役場職員は4月9日まで24時間体制で対応した。

なお、8月、虻田町からお礼



## 謎の巨大水柱

令和4（2022）年8月8日、飯生神社敷地内に突如出現した巨大水柱は、高さ約30m。調査の結果、人体に影響する有害物質は見られず、水温21.5℃、強度の食塩泉と判明。周辺の建物や車に錆が出る危険があり、何よりも「う音が住民を悩ませた。

対策の検討を進める中、50日後の9月26日、水柱の噴出が止まった。町は、再噴出に備えて、防音装置（特殊な吸音バルブをはめ込んだ防音壁で水柱を覆

## 充実する防災対策

寿都町から黒松内町を経て長万部町に至る長さ32kmの黒松内低地断層帯で地震が発生した場合、最大震度6強、30年以内の地震発生確率2〜5%と想定されている。

こうした中、災害対策基本法に基づく「長万部町地域防災計画」を基本とし、「長万部町災害用備蓄計画」「長万部町津波避難計画」「長万部町避難行動要支援者避難支援計画」を策定し、災害に備えている。平成26（2014）年には東京理科大学との間で「災害時等における協力体制に関する協定」を締結。役場庁舎の被災時、同大学北海道・長万部キャンパス内に災害対策本部機能を移転することなどを盛り込んだ。

令和3（2021）年7月、北海道が



として500万円が届けられたが、長万部町はほぼ同額に当たる災害監視車を同町に寄贈した。

## 東日本大震災

平成23（2011）年3月11日午後2時46分三陸沖を震源地とするマグニチュード9.0、未曾有の巨大地震が発生した。長万部町の震度は3だったものの、午後3時14分には津波警報が発表され、直ちに災害対策本部を設置。消防車両によるパトロール、自主避難者用施

太平洋沿岸の市町村における新たな津波浸水被害想定を公表したことを受け、当町は既存のハザードマップの更新・統合を実施し、各種防災情報と合わせた新「防災ハンドブック」を作成、全戸配布した。災害の備えや、災害発生時の行動について詳しく説明している。

町では、緊急性の高い災害情報については緊急速報メールで配信してきたが、さらに令和2年度には希望世帯に対し、防災ラジオの無償貸与を開始した。災害以外の情報配信も行い、ネット環境のない人にとっても貴重な情報入手手段となった。

コロナ禍最中の令和4年度には、感染症対策を含めた避難所の運営訓練を実施した。同年、ハザードマップに基づく長万部町水災害避難啓発動画を制作し、一般公開している。また、町は近隣市町村や各種団体、民間企業などと災害時の相互協力協定を約25か所と結んでいる。



01. 北海道南西沖地震の被害
02. 水災害避難啓発動画
03. 水柱の塩害対策で消防が散水
04. 防災出前講座の実施(高砂町内会)

# 子ども・子育て支援が、次代の長万部を築く。

少子高齢化や核家族化、就労の多様化、地域コミュニティ意識の希薄化など、子ども・子育てをめぐる環境は大きく変化してきた。今、地域社会全体で子ども・子育てを支援する仕組みの構築が求められている。

## 町全体で子どもを育むために

町の合計特殊出生率は北海道の水準よりも高い数値で推移しているものの、平成21（2009）年に43人だった町内の出生数は、平成27年には27人へと減少し、以降はほぼ横ばいが続いている。0～5歳の就学前児童は平成22年の216人から減少し、令和元（2019）年には174人となるなど、長万部町も例外なく少子化が進行している。

少子化が大きな課題となる中、国はその対策に力を注いできた。平成24年8月に成立した「子ども・子育て関連3法」によって、幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援に共通の仕組みが定められた。

3法のうち「子ども・子育て支援法」に基づき、町では平成27年に「長万部町子ども・子育て支援事業計画」（平成27～31年度）、さらに令和2年に「第2期

長万部町子ども・子育て支援事業計画」（令和2～6年度）を策定した。「みんなのふれあいと優しさで 子どもを育む『おしゃまんべ』」を基本理念として手厚い子育て施策を展開している。



## 三つの保育所・幼稚園

町の次代を担う貴重な子どもたち（就学前）を、三つの保育所・幼稚園が支えている。

町立の保育所として平成17（2005）年9月、大町保育所と統合し南栄町に開所したさかえ保育所（定員60人）がある。3歳以上、3歳未満とも対応する。子育て支援センターを併設し、各種子育て事業の拠点ともなっている。

私立のいずみ保育園（定員42人）は、



昭和39（1964）年、本町の乗蓮寺境内に開園した保育所。長く認可外保育施設として運営されてきたが、令和5（2023）年4月に新園舎の完成とともに認可保育所に移行した。3歳以上のほか、0～2歳児保育も受け入れている。昭和35年に開園した長万部マリア幼稚園（定員60人）は、令和3年2月に新園舎（富野）が完成するとともに4月には幼保連携型認定こども園に移行した。令和2年度から、横割り（年齢別）を組み入れながらも縦割り（異年齢児）保育を導入し、子どもの成長発達を支援している。保育利用は0歳児から行う。



食の後は、ゲームなどを行いコミュニケーションの場とする。

子どもだけでなく、高齢者まで含めてだれでも利用できる開かれた空間であることが特徴となり、地域に根ざした社会福祉サービスの提供を目指している。



また、令和元（2019）年6月には、「放課後みつけクラブ」を開始した。町の全ての小中学生を対象に、放課後（水曜日）や休日を利用し、さまざまな体験活動を行うことを目的とした放課後子ども体験教室である。

「みつけクラブ」という名称には、「長万部のいいところ、友だちのいいところ、自分のいいところをみつけられるような活動をする」との思いが込められている。

学習文化センターの2階を会場とし、毎週水曜日の放課後に実施。町教育委員会の事業として実施するが、運営については元地域おこし協力隊員が主宰する「officeこえん」に委託している。

令和5年2月、こども食堂「おっちゃんこ」（南栄町）が始まった。町の福祉事業として民間が運営している。町民から食材を提供してもらい、ボランティアスタッフが対応する。月1回（第3土曜日）のお昼に食事を無料で提供する。昼

## 子どもの居場所づくり

長万部町における女性の年齢階層別就業率を見ると、25歳以上はおおむね70%以上（平成27年国勢調査）となっている。そのため、児童・生徒が放課後いかに過ごすかということは、重要な課題となる。

町では、放課後の居場所づくりについで



て選択肢の一つとして平成27（2015）年4月、学童保育所「ななかまど」を開始した。父母が昼間働いているなど家庭にいない児童に生活の場を提供している。放課後だけではなく、夏休み、冬休みなど学校の長期休業中も利用できる。遊びや勉強をすることもでき、食事の提供もある。旧大町保育所をリフォームして実施している。

て選択肢の一つとして平成27（2015）年4月、学童保育所「ななかまど」を開始した。父母が昼間働いているなど家庭にいない児童に生活の場を提供している。放課後だけではなく、夏休み、冬休みなど学校の長期休業中も利用できる。遊びや勉強をすることもでき、食事の提供もある。旧大町保育所をリフォームして実施している。



- 01. いずみ保育園
- 02. さかえ保育所・子育て支援センター
- 03. 放課後みつけクラブ
- 04. 学童保育所ななかまど

- 05. マリア幼稚園
- 06. こども食堂おっちゃんこ
- 07. 子育て支援センターで遊ぶ子どもたち
- 08. ななかまどのお楽しみ会

# 長万部の学校、今昔をたどる。①

かつて長万部町には9小学校、4中学校が存在した。人口減少が進む中、令和5年現在、小中学校各1校ずつとなっている。平成・令和に閉校した6つの小学校の足跡を振り返ってみよう。

## 藤岱小学校

藤岱は、長万部から寿都に至る重要な交通路に当たり、往來の多い場所であったため、安政3（1856）年には黒松内山道が開削され、同年から開塾が始まっていた。

ここに国鉄藤岱駅ができた明治37（1904）年、藤岱小学校が開校した（當時は二股尋常小学校特別教育所）。平成13（2001）年3月に閉校するまで96年間の歴史があり、422人の卒業生を送り出した。全校の児童数が60人を超えた時代もあった。昭和61（1986）年度には国鉄民営化の影響により児童数が0となったものの、翌62年度に復活した。

平成期には、春の探鳥会、大運動会、夏休みのキャンプ、雪祭り（雪中運動会、餅つき大会、かまくら遊び）など、年間を通して楽しいイベントを開催した。



01



02

最後となる平成12（2000）年度の児童数は2人。閉校後は双葉小学校へ統合された。この年の5月、NHKの「にっぽんを歩く③わらびっ子ふたり」で学校が取り上げられた。

## 双葉小学校

知来に愛知県から移住した地域住民の寄附・木材拠出などにより校舎を用意し、明治28（1895）年に長万部尋常小学校二股分校の開校が実現した。このときの入植者は濃尾地震（明治24年、愛知・岐阜で発災）の罹災者たちである。明治33年に二股尋常小学校として独立、昭和15（1940）年には双葉尋常小学校と改称した。幾多の変遷を経た後、平成5（1993）年には新校舎・体育館・プールが落成した。

昭和60年、PTA会員の奉仕でグラウンドに体力づくり施設が作られ、昭和63年・平成6年には北海道体力づくり優良学校表彰を受賞。平成12年11月には、開校100周年を迎え、記念式典・祝賀会を挙行了した。

児童数がピークとなる昭和38年には39人の卒業生を数えたが、昭和40年代



03



04



05



06

## 共立小学校

半ば以降、児童数は減少した。平成17年3月の閉校（長万部小学校に統合）までに1235人の卒業生を送り出した。

現在、グラウンドをパークゴルフ場として地域住民が整備し、今も活用している。

01. 藤岱小学校雪まつり（平成10年）
02. 藤岱小学校校舎
03. 双葉小学校校舎
04. 双葉小学校体力づくり優良学校表彰式（昭和63年）
05. 共立小学校校舎
06. 共立小学校学芸会（平成20年）

大正3（1914）年9月、幌内特別教授場として開校した。同6年に牧定内尋常小学校、同15年に共立尋常小学校と改称を重ねた。この間、昭和3（1928）年から着任し、同10年に第3代校長となった久保田力先生は、複式学校教育に特に力を入れ、定年退職する昭和27年まで地域の教育を支えた。

創立50周年を迎えた昭和38年には、静狩（幌内）原野が農地化され、校区に入植者が激増したので2教室を新築した。以降昭和40年ころまで在校生が80人前後で推移し、児童数がピークとなった。その後急減し、昭和51年以降は10人未満となり、62年は2人となった。長万部小学校と統合し廃校となる平成21（2009）年3月まで卒業生は457人を数えた。

昭和59年には写万岳登山道開設に地域住民とともに関わった。平成7年の在学学生は、高速道路工事のためタクシー通学をした。「ふみの日」手紙・はがきコンクール団体の部学校賞（平成8年）、手紙作文コンクール学校賞（平成12・13年）などの受賞に加え、平成15年には全校絵手紙教室を実施するなど、特色ある教育を実践した。毛がにロードレースには、全校で参加していた。

# 長万部の学校、今昔をたどる。②

## 中の沢小学校

昭和23（1948）年に開校し、同29年、洞爺丸台風（台風15号）により校舎が倒壊したので、翌年に新築移転した。児童数がピークとなる昭和30年代には100人を超え、120人となる年もあり、平成2（1990）年に新校舎へ移転した。

地域の人々の協力を得て、海浜運動会、親子サイクリング、夏季キャンプなどに取り組んだことが評価され、北海道体力づくり優良学校（平成3・4年）、全日本健康推進学校表彰（平成5年）を受賞。また、学校と地域が協力して行う大運動会など、地域とともに歩んできた地域のシンボルであった。

平成5年7月の北海道南西沖地震では、校舎やグラウンドに大きな被害を受けたが、1年間を費やして復旧した。平成12年には、PTA会員等が協力し、



03



04



01



02

総合的な学習の時間で「ホタテの耳吊り」をテーマに地域体験学習がスタートした。

平成に入ってからおおむね30人前後で推移してきた児童数は、平成10年ころから10人以下となり、23年3月で児童数が4人となるため廃校し、長万部小学校に統合された。この間、451人の卒業生を送り出した。

## 国縫小学校

国縫小学校は、明治26（1893）年に長万部小学校訓縫分校として開校し、同33年、長万部小学校から独立。マンガン鉱の開発や鉄道開通によって集落は急速に発展し、児童数も教室に収容しきれないほどに増加した。

増改築を繰り返してきた校舎は老朽化も著しく、昭和50（1975）年に新校舎・体育館を完成させた。一時は卒業生だけで毎年70人に及んだ。昭和55年には茶屋川小学校が統合されたが、児童数の減少に伴い昭和58年度から複式学級を導入した。平成5（1993）年の北海道南西沖地震により校舎・プール・グラウンドに被害を受けたが、平成8年度までに復旧した。

平成17年度には完全複式校となった。地域の協力を得て多様な行事を開催したことも特色の一つだった。113年の

## 静狩小学校

静狩小学校は、明治35（1902）年、静狩簡易教育所として創立。昭和9（1934）年に静狩金山精錬所が完成すると、児童数が激増して、校舎の増築を重ねた。鉱山が昭和18年に閉鎖されると、児童数は激減することとなった。この間、児童数は1000人以上に及んでいた。その後も昭和50年までは100人以上の児童数を保った。平成14（2002）年には開校100周年を迎えた。

「笑顔のある学校を創ろう」を校訓に、運動会や学芸会、地域文化祭、サマー

キャンプ、学校園の活動、郷土芸能活動（静狩太鼓、よさこいソーラン）など、地域ぐるみで取り組んできた。1人1台の輪車があり、毎年の運動会で個人技・団体技が披露された。これは全国的にも珍しかった。

平成15年には、全道へき地複式教育研究大会渡島大会の会場となり、授業が公開された。

令和4（2022）年3月で119年の歴史に終止符を打ち、長万部小学校に統合された。この間、3262人もの卒業生を輩出した。

- 01. 中の沢小学校校舎
- 02. 中の沢小学校 教員住宅前で雪遊び
- 03. 国縫小学校校舎
- 04. 国縫小学校 研究授業の様子（平成26年）
- 05. 静狩小学校校舎
- 06. 静狩小学校運動会（令和3年）



05



06

# ―学校づくりも、まちづくり。―

町には、長万部小学校、長万部中学校、そして北海道長万部高等学校（以下、長万部高校）がある。地域や小中高の連携、東京理科大学との連携を密にした教育が特色の一つになっている。

## 小中高の概要

明治11（1878）年に開校した長万部小学校は令和5（2023）年現在、145年の歴史を持つ。令和4年、静狩小学校を統合したことにより、通学区域は町全体となった。令和5年5月現在の児童数は163人を数える。

昭和22（1947）年に開校した長万部中学校は、昭和57年、町内4中学校（長万部、静狩、国縫、双葉）が統合して、新たな長万部中学校が開校し、校舎も現在地の栄原に移転した。令和5年5月現在の生徒数は97人。全校生徒と教職員が一堂に会しての給食が特色の一つとなっている。

長万部高校は、昭和25年に北海道八雲高校長万部分校（定時制）として開校、翌26年

01

に北海道長万部高等学校（定時制）として独立した。27年に通常課程普通科、33年に商業科を増設した。定時制課程は昭和60年、商業科は平成25（2013）年で閉課・科となった。

## 充実する連携の形

少子高齢化や過疎化が進む中、持続可能なまちづくり・学校づくりを目指し、平成17（2005）年度から24年度まで、長万部中学校と長万部高校の連携型中高一貫教育を展開した。中高一貫教育には、①ゆとりある学校生活、②継続性ある教育指導、③伸びる個性・才能、④豊かな人間性の育成などのメリットが考えられる。

両校の連携型一貫教育では、中学校での英語・数学のチーム・ティーチング、習熟度別学習指導、英語検定・漢字検定・数学検定の中高合同実施、部活動交流（陸上競技、バスケットボール、剣道等）、連携型入学者選抜などに取り組んだ。

さらに、平成27年10月には、東京理科大学と長万部高校との間で連携・協力に関する協定が結ばれた。

長万部高校は平成29・30年度の2年間、教育課程研究指定校（校種間連携）に指定され、長万部中学校と連携し、「町民ふれあいオリムピック」への参加、まちづくりプロジェクトの実施、東京理科大学教員の特別講座、同大学生によ

トコンサートなど数々の取り組みを行った。

一方、東京理科大学は、平成19年度から外国人教員を長万部小学校・中学校に派遣することによって充実した英語教育の展開に協力してきた。

このように、長万部町内の小中高、そして東京理科大学が相互に連携して、人づくりをまちづくりに繋げていく体制が充実している。

## 長万部高校への支援

長万部高校は、令和5（2023）年現在、3学年の合計生徒数45人、普通科1学級である。道立学校である同校の存続は町にとっても重要なテーマであり、数々の支援を行ってきた。

平成17（2005）年度から、町の学校給食センターによる学校給食提供（1食300円）を道内で初めて開始した。

平成20年度には通学定期代の全額補助、23年度には制服購入費の全額補助を開始し、現在に至るまで継続している。

また、長万部高校卒業生のうち国公立大・東京理科大学進学者には、授業料の2分の1給付・2分の1無利子貸与という町独自の奨学金制度を設けている。さらに各種検定料金の3割補助、行事・部活の遠征などにおけるスクールバスの運行などを実施している。



03



04



07



06



05

01. 長万部小学校運動会（令和5年）  
02. 長万部小学校校舎  
03. 長万部中学校校舎  
04. 長万部高校校舎

05. 長万部高校毛がにまつり出店（令和5年）  
06. 長万部中学校吹奏楽部（令和4年）  
07. 長万部小学校入学式（令和5年）



02

る大学案内・進路相談・特別授業、長万部高校卒業生による国際理解のワークショップ開催、同校オープンスクールへの長万部中学校2・3年生全員参加などの事業を実施した。その一環である小中高連携事業では、長万部小学校への理科・英語教員支援、小中高合同の家庭学習強調週間の設定、小中高吹奏楽ジョイン

# 地域おこし協力隊がまちを活性化させる。――

平成28年度、長万部町は「地域おこし協力隊」を導入し、3人の隊員が誕生した。以来、令和5年現在まで合計8人の隊員が活動してきた。町に新風をもたらし、地域の活性化にも貢献する地域おこし協力隊の取り組み、そして卒業後の活動について迫ってみたい。

## 専門型と提案型の協力隊制度

地域おこし協力隊（以下、協力隊）とは、都市地域から人口減少や高齢化の進行為著しい地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRといった地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みである（総務省ホームページより）。

各地方自治体が隊員を任命。任期は3年以内、活動内容や条件、待遇などは自治体によりさまざまである。地方自治体が自由に制度設計できる部分が多いのが特徴だ。平成21（2009）年度から始まった制度で、長万部町が導入した28年度には全国で約4000人の隊員が活動していた。

長万部町は、全国の多くの地方と同様に人口減少や人材不足が深刻化し、中

心商店街に空き店舗が目立つ一方、令和12（2030）年度末の北海道新幹線長万部駅開業に向けてのまちづくりの推進には多彩な人材が求められる。町は地域外の人材を積極的に誘致すべく地域おこし協力隊の導入を決めた。

平成28年、町が課題と考える事業の担い手（観光・農業支援）として専門型の隊員を募集したところ、15人が応募。面接を経て隊員3人を採用した。

3人のうち、2人は観光案内所「インフォマンベ」のスタッフとして働きながら、さまざまなイベントや地域活動に参加、町のPRに携わり、1人はそれまでのキャリアから得た知識・技術を生かし、企画分野の支援員として活動した。

その後、協力隊制度を継続していくと、町が設定した課題に限らず、自ら挑戦したい事業やテーマを提案する隊員志望者が増えた。そこで、町では従来町になかった独自の視点からの事業創出等が



01

商店街やコミュニティの活性化に結びつくと考え、令和2年度から提案型の協力隊制度を創設した。

## 活動しやすい環境づくり

町では、協力隊の活動について、「見守り方が重要」との考えを基本に、採用前から採用後まで職員が寄り添って支援している。

まず、募集時には専門型、提案型に限らず、応募者の挑戦したい事業の内容に



02

応じて町内を案内し、場合によっては住民や事業者も紹介し、町に住むイメージを掴みやすくする。

採用後は、働きやすい環境を実現するため担当職員が手厚くサポートする。例えば、ミッションに対して主体的に関わる姿勢を身につけられるよう、自身の活動経費に関する予算要求も含め、事務手続きの多くを隊員自らが行う。また、行政組織全体で隊員の活動を応援し、隊員が円滑に仕事や定住準備を進めるため、配属先の職員と協力隊の担当職員が協力する。活動報告会を月に一度開き、



03

隊員の状況を詳細に把握し、具体的なアドバイスを行うなど細やかに配慮するとともに、孤立化を防ぐ。

隊員が企画するイベントに、他の隊員が協力したり、視察研修と一緒に参加したり、隊員同士が交流する機会も設けている。年に一度の町民向け活動報告会では、企画・運営を隊員たちが一丸となって行う。

## 活躍する卒業生たち

こうした隊員活動のための環境づくりに力を入れた結果、これまで町になかったようなイベントが数多く実現し、町民の参加も増え、着実に活性化がもたらされている。

令和5（2023）年4月現在、6人



04

の隊員が卒業し、卒業時点では5人が町内で起業・就職するなど、定着率は高い。平成31（2019）年3月に卒業した中野美貴さんは、協力隊として子どもたちを対象にした自然体験イベントや木育活動などの経験を基に、卒業後、「officeごえん」を設立。学習文化センターを活用し、社会教育事業として「放課後子ども体験教室（放課後みっけクラブ）」を町教育委員会と共催し、令和元年6月にスタート。小学生を対象とし、放課後や休日にもづくりをはじめ、さまざまな体験活動を実施している。

平成30年に着任した松本雄祐さんは、当初は農業を志すも方針転換して飲食店の開業を目指した。卒業後の令和3年4月、中心商店街の一角に「炭火焼鳥 まっちゃん」をオープンさせ、現在、店主として厨房に立ち、まちのにぎわい創出に貢献している。

亀田純孝さんは図書館職員としての定住を目指して、令和2年4月に着任し、長万部町図書館業務の補助に当たる傍



06



05

01. イキイキとした子どもたち（中野隊員）  
02. 活動報告会の準備（右から山谷隊員・亀田隊員・高橋隊員）  
03. 協力隊終了後に焼き鳥店を開業した松本隊員

04. 空き店舗の活用を行う佐藤隊員  
05. 活動報告会の実施（右から松本隊員・中野隊員・武澤隊員・西山隊員）  
06. 子ども向けの合気道教室（亀田隊員）

ら、静狩湿原特別展などの展示企画、合気道教室、オーサービジット（作家を招いてのワークショップ）等の自主企画を実施。卒業後の令和5年4月、目標どおり図書館司書として長万部町図書館への就職が実現した。

さらに、令和5年現在、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業所の開所を実現し、こども食堂「おっちゃんこ」を運営する隊員、オーガニック・グルテンフリーの飲食事業の創出を目指す隊員が活動中である。

伝統の祭礼から盛大な産業祭りまで、さまざまなイベントが躍動する長万部町。特に夏には、2日間で約1万人が集まる「おしゃまんべ毛がにまつり」、勇壮にして熱気あふれる飯生神社例大祭や静狩稲荷神社祭典の神輿海中禊など、人々を元気にしてくれるまつりが立て続けに行われる。

## ― まちを元気にするまつり。 ―



### おしゃまんべ毛がにまつり

「おしゃまんべフェスティバル」を前身として、平成11(1999)年に名称を変えて続く、町最大のイベント「おしゃまんべ毛がにまつり」。「毛がに全日本早食い競争」などのステージイベントに加え、数量限定毛がに格安即売会や地元の新鮮野菜即売会、長万部名物のかにめしやホタテなど長万部のグルメを楽しむ。毎年6月下旬～7月上旬の土・日曜日にふれあい公園で開催。



### 静狩稲荷神社祭典 神輿海中禊

毎年7月10日、漁業の豊漁と無事故を願ってみこしを担いだ若者たちが各家庭を回り、最後は噴火湾前浜を練り歩いて海中に入っていく勇壮な伝統行事。



### 飯生神社例大祭

毎年8月9～11日、飯生神社で開催される夏恒例の例大祭。国指定の重要無形民俗文化財である松前神楽が披露される9日の宵宮祭り、長万部太鼓やみこし渡御が行われる10日の本祭が見どころ。さらに神社横の広場では多彩なイベントが繰り上げられる。



## 記憶の物語

櫻田 智也  
さくらだ ともや

2021年、コロナ禍のなか、祖母が長万部を離れることになった。94歳の一人暮らしは、さすがに難しいとの判断だった。

ぼくは1977年に長万部で生まれ、小学4年生まで住吉町の国鉄官舎に住んでいた。子どもの足でも遠くない高砂町の祖父母宅は、もうひとつの自宅のようなものだった。函館に引っ越したあとも、祖父母がいる長万部は、いつでも帰ることを許される故郷でありつづけた。そんなもうひとつの実家が、とうとう空き家になってしまった。子どもの頃によく遊んだ従妹にメールをすると、「長万部の家は安らぎの空間だった」と返信があった。

ぼくにとっても安らぎの場所だったはずの祖父母宅に、あまり帰らなくなったのは、いつの頃から

らだったろう。進学と就職で道外に居着いてしまったから……という理由はもっともらしいが、それだけではなかったと思う。

自立したくて、つい背伸びをする青年期には、自分を気にかけてくれる身近な存在——とくに親類——を煩わしく感じるときがある。「俺だって大人なんだから」という反発と、「大人なのに心配ばかりかけている」という後ろめたさの両方が、親や祖父母との距離を遠ざけた。長万部にほとんど帰らぬ20代をすごし、30歳のときに祖父が亡くなった。

それから14年、祖母が長万部を離れたことで、ぼくと故郷の繋がりは消えてしまったと感じていた。ところが翌2022年、長万部町の地域おこし協力隊から思わぬオファーをもらった。地元出

が長万部との繋がりを取り戻してくれたと考えれば、それはそれで、ちよつとした物語のようだ。

そういえば講演の質問コーナーで、「次は（架空の街ではない）長万部を舞台にしてほしい」という意見を頂戴した。ぜひとも実現したい魅力的なアイデアだが、問題は、ぼくの専門が推理小説であるという点だ。なしる推理小

説の華は殺人事件と決まっている。町内にそのような悲劇を起こすことが、はたして故郷への恩返しになるのかどうか……。ふたたび長万部と疎遠にならぬよう、慎重に検討する必要があるようだ。



身の小説家として講演をしてほしいという内容だった。そんな依頼は初めてだったが、断るという選択はなかった。なぜならぼくは小説家として、すでに長万部のお世話になっていたからだ。

2020年に出した2冊目の短編集に、北海道を舞台にした「ホタル計画」という話が入っている。主人公である探偵の過去を巡る物語なのだが、描きたかったのは、大切な人と向き合えなかった後悔や、大切な人を亡くした喪失感、そしてなにより、傷ついた登場人物たちがそれぞれの再生へと向かってゆく姿だった。

自分の後悔と向き合うように書いたその短編のなかで、事件が起こる架空の街は、当然のように長万部を想わせる場所になった。その街には鉄路がはしり、東京の大学のキャンパスがあり、そして事件に関わる少年は祖父母の家で暮らしている……。

おそらく「ホタル計画」を書いていなければ、長万部から講演のオファーは届かなかっただろうし、こうして記念誌に寄稿することもない。長万部の記憶が小説になり、その小説



▲櫻田智也先生の著書  
出版社 東京創元社  
装画 河合真維  
装幀 長崎綾(next door design)

### 小説家 櫻田 智也

1977年長万部町生まれ。2013年、「友はエスパー」が第4回創元SF短編賞の最終候補となる。同年、「サーチライトと誘蛾灯」で第10回ミステリーズ!新人賞を受賞。2018年「火事と標本」、2020年「コマチグモ」にて第71回・第73回日本推理作家協会賞短編部門候補となる。2021年、『蝉かえる』で第74回日本推理作家協会賞長編及び連作短編集部門、第21回本格ミステリ大賞小説部門を受賞。



人口

●人口の推移

| 年次     | 世帯数<br>(世帯) | 人口(人) |       |       | 1世帯あたり  | 適用              |
|--------|-------------|-------|-------|-------|---------|-----------------|
|        |             | 男     | 女     | 総数    | 平均人員(人) |                 |
| 平成 12年 | 3,423       | 4,020 | 4,012 | 8,032 | 2.35    | 国勢調査人口(10月1日)   |
| 平成 17年 | 3,012       | 3,395 | 3,608 | 7,003 | 2.32    | //              |
| 平成 22年 | 2,847       | 3,040 | 3,346 | 6,386 | 2.24    | //              |
| 平成 27年 | 2,685       | 2,869 | 3,057 | 5,926 | 2.21    | //              |
| 令和 2 年 | 2,717       | 2,448 | 2,661 | 5,109 | 1.88    | //              |
| 令和 3 年 | 2,841       | 2,328 | 2,675 | 5,003 | 1.76    | 住民基本台帳人口(10月1日) |
| 令和 4 年 | 2,819       | 2,306 | 2,621 | 4,927 | 1.75    | //              |

●年齢階層別人口(令和2年国勢調査)

| 総数 |    |       |    |      |      |        |        |        |        |        |        |        |     |
|----|----|-------|----|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 人数 | 男  | 2,448 | 年齢 | 0～4歳 | 5～9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 |     |
|    | 女  | 2,661 | 人数 | 男    | 56   | 67     | 77     | 53     | 95     | 108    | 98     | 116    | 153 |
|    | 合計 | 5,109 |    | 女    | 58   | 78     | 79     | 72     | 72     | 93     | 95     | 118    | 110 |
|    |    |       |    | 合計   | 114  | 145    | 156    | 125    | 167    | 201    | 193    | 234    | 263 |

| 年齢 |    | 45～49歳 | 50～54歳 | 55～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70～74歳 | 75～79歳 | 80～84歳 | 85～89歳 | 90～94歳 | 95～99歳 | 100歳以上 |
|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人数 | 男  | 194    | 159    | 168    | 193    | 226    | 209    | 127    | 124    | 103    | 56     | 8      | 1      |
|    | 女  | 132    | 117    | 177    | 184    | 251    | 209    | 207    | 237    | 201    | 97     | 27     | 5      |
|    | 合計 | 326    | 276    | 345    | 377    | 477    | 418    | 334    | 361    | 304    | 153    | 35     | 6      |

●人口動態の推移(町民課調)

| 年次 |        | 自然的要因(人) |     |     | 社会的要因(人) |     |      | 婚姻  | 離婚  |
|----|--------|----------|-----|-----|----------|-----|------|-----|-----|
|    |        | 出生       | 死亡  | 増減  | 転入       | 転出  | 増減   | (組) | (組) |
| 人数 | 平成 17年 | 33       | 93  | △60 | 413      | 620 | △207 | 29  | 16  |
|    | 平成 18年 | 44       | 86  | △42 | 478      | 525 | △47  | 31  | 12  |
|    | 平成 23年 | 36       | 110 | △74 | 488      | 523 | △35  | 18  | 8   |
|    | 平成 28年 | 28       | 106 | △78 | 450      | 663 | △213 | 8   | 7   |
|    | 令和 3 年 | 23       | 95  | △72 | 201      | 289 | △88  | 6   | 7   |
|    | 令和 4 年 | 20       | 101 | △81 | 314      | 299 | 15   | 19  | 4   |

●集落別面積・世帯・人口(令和2年国勢調査)

| 字名  | 面積(k㎡) | 世帯数   | 人口(人) |       |       |
|-----|--------|-------|-------|-------|-------|
|     |        |       | 男     | 女     | 総数    |
| 豊津  | 24     | 54    | 59    | 9     | 68    |
| 豊野  | 16     | 15    | 16    | 15    | 31    |
| 茶屋川 | 48     |       |       |       |       |
| 国縫  | 7      | 210   | 133   | 201   | 334   |
| 花岡  | 5      | 8     | 6     | 14    | 20    |
| 中の沢 | 3      | 53    | 44    | 55    | 99    |
| 平里  | 40     | 57    | 88    | 162   | 250   |
| 大浜  | 1      | 220   | 176   | 190   | 366   |
| 富野  | 12     | 92    | 103   | 89    | 192   |
| 長万部 | 3      | 1,495 | 1,347 | 1,478 | 2,825 |

| 字名 | 面積(k㎡) | 世帯数   | 人口(人) |       |       |
|----|--------|-------|-------|-------|-------|
|    |        |       | 男     | 女     | 総数    |
| 栗岡 | 6      | 40    | 35    | 15    | 50    |
| 美畑 | 15     | 32    | 27    | 27    | 54    |
| 双葉 | 21     |       |       |       |       |
| 大峯 | 24     | 7     | 5     | 8     | 13    |
| 知来 | 10     |       |       |       |       |
| 蔵岱 | 17     | 8     | 8     | 11    | 19    |
| 旭浜 | 2      | 157   | 176   | 128   | 304   |
| 栄原 | 8      | 53    | 52    | 54    | 106   |
| 共立 | 27     | 21    | 20    | 19    | 39    |
| 静狩 | 21     | 195   | 153   | 186   | 339   |
| 合計 | 311    | 2,717 | 2,448 | 2,661 | 5,109 |

自然



渡島半島内浦湾の最深部にあります

長万部町は渡島半島内浦湾の最深部に位置し、東は内浦湾に臨み北は長万部川をさかのぼって、島牧村・黒松内町に接し、西は今金町に、南は八雲町に接しています。

地形はおおむね丘陵が起伏し、大部分が山地によって占められ、平地は内浦湾に沿って帯状に分布し、長万部川・紋別川・国縫川沿いに平坦で肥よくな農耕地を有しています。また、海岸のほとんどは砂浜です。

道南の交通拠点です

古くから道南と道央を結ぶ交通の要衝として重要な地となっており、JR函館本線・室蘭本線の分岐始発駅となっています。

函館と札幌の中間にあり、多くの休憩スポットがある憩いの町です。

また、長万部町には高速道路のICが2カ所あり、今後ますます北海道の重要な交通拠点としての役割が高まってきております。

●字長万部区域表

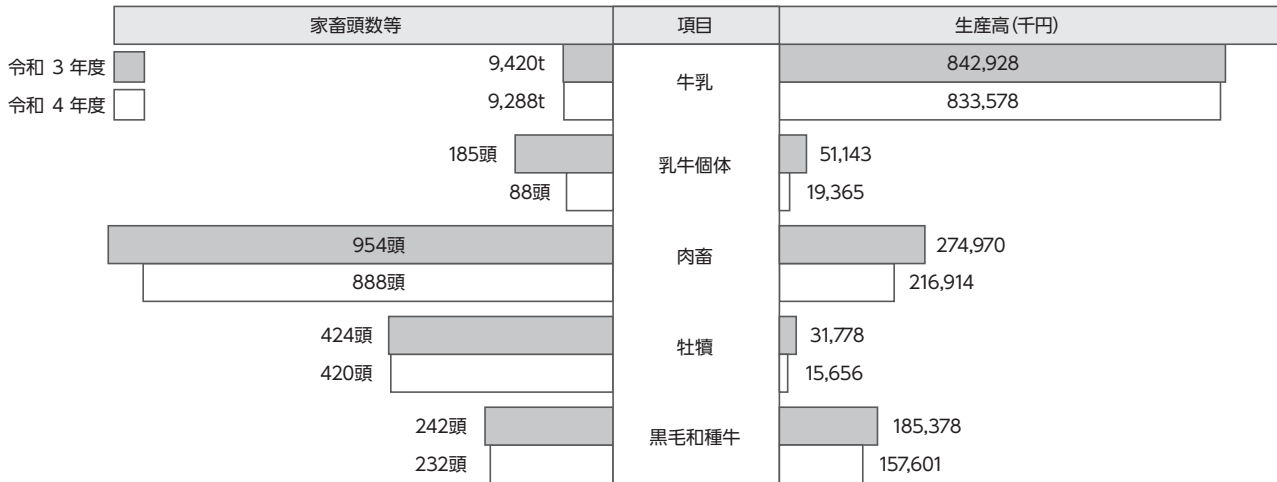
| 住所 | 番地                                                                              | 住所  | 番地                                                                                                                                                                                                                                     | 住所   | 番地                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------|
| 大町 | 1, 2, 4, 6～14                                                                   | 元町  | 74, 75, 78, 79, 83, 84, 86, 87, 141～148, 150, 152～154, 158～162, 425, 452, 454                                                                                                                                                          | 温泉町  | 390～404, 406～411, 415, 424, 451        |
|    | 7, 11, 15～23, 25                                                                |     | 78, 86, 87, 93～95, 97～99, 137, 156, 157, 163, 164, 166～175, 177～192, 194, 200, 201, 204                                                                                                                                                | 高砂町  | 411, 426, 晴心寮                          |
|    | 15, 29                                                                          |     |                                                                                                                                                                                                                                        | 南栄町  | 427, 428, 429, 430, 431, 432, 434, 445 |
|    | 15, 25, 26, 30～37, 447, 450, 457                                                |     |                                                                                                                                                                                                                                        | 新開町  | 434, 441, 443, 444                     |
| 本町 | 31, 35, 39～41, 45～48, 101, 103～106, 108, 110, 113, 114, 446, 447, 450, 451, 477 | 陣屋町 | 216, 219, 222～224, 228, 233, 234, 236～238, 241, 243, 244～246, 250～254, 257, 259, 547, 261, 263, 264, 273, 265, 275, 276, 280, 283～292, 297, 298, 303～307, 311, 324～327, 332, 333, 337, 350, 352～355, 358, 359, 372, 379, 382, 383, 384 | 曙町   | 鉄道用地、3, 5                              |
|    | 64, 69～71, 112～116, 118, 128, 446, 451                                          |     | 住吉町                                                                                                                                                                                                                                    | 鉄道用地 |                                        |
|    | 72, 73, 76, 125, 128, 132, 134, 143, 452, 453                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                        |      |                                        |
|    |                                                                                 |     |                                                                                                                                                                                                                                        |      |                                        |

●気象の概要(気象庁・町消防調)

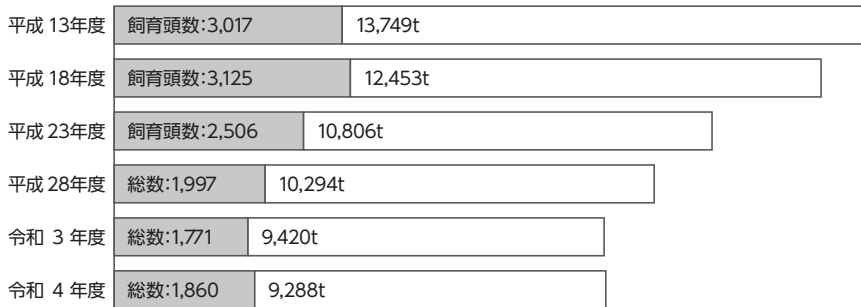
| 年次     | 気温(℃) |      |       | 平均湿度<br>(%) | 風速(m/s) |      | 天候(日) |     |    |    | 降水量<br>(mm) | 最深積雪量<br>(cm) |
|--------|-------|------|-------|-------------|---------|------|-------|-----|----|----|-------------|---------------|
|        | 日平均   | 最高   | 最低    |             | 平均      | 最大   | 晴れ    | 曇り  | 雨  | 雪  |             |               |
| 平成 13年 | 6.9   | 28.1 | -18.5 | 59          | 2.1     | 11   | 168   | 132 | 37 | 28 | 1033.0      | 76            |
| 平成 18年 | 7.6   | 29.5 | -15.9 | 78          | 2.2     | 11   | 147   | 128 | 47 | 43 | 1271.0      | 110           |
| 平成 23年 | 7.4   | 31.7 | -16.6 | 76          | 2.4     | 13.8 | 163   | 135 | 38 | 29 | 1285.5      | 75            |
| 平成 28年 | 7.6   | 29.1 | -14.7 | 75          | 2.5     | 19.8 | 157   | 141 | 44 | 24 | 1392.5      | 68            |
| 令和 3 年 | 8.3   | 32.6 | -18.9 | 81          | 2.7     | 13.9 | 130   | 175 | 35 | 25 | 1269.5      | 105           |
| 令和 4 年 | 8.2   | 30.3 | -15.4 | 82          | 2.7     | 13.2 | 130   | 172 | 39 | 24 | 1421.0      | 111           |

## 農業

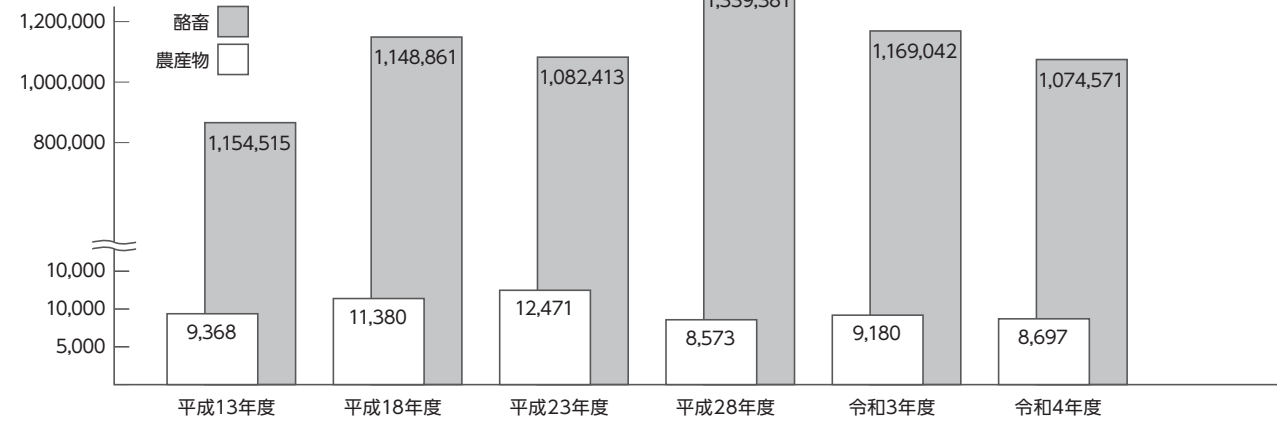
### ●農業生産の状況(産業振興課調)



### ●乳牛飼育頭数および牛乳生産量の推移(産業振興課調)



### ●農業生産額の推移(産業振興課調／単位:千円)



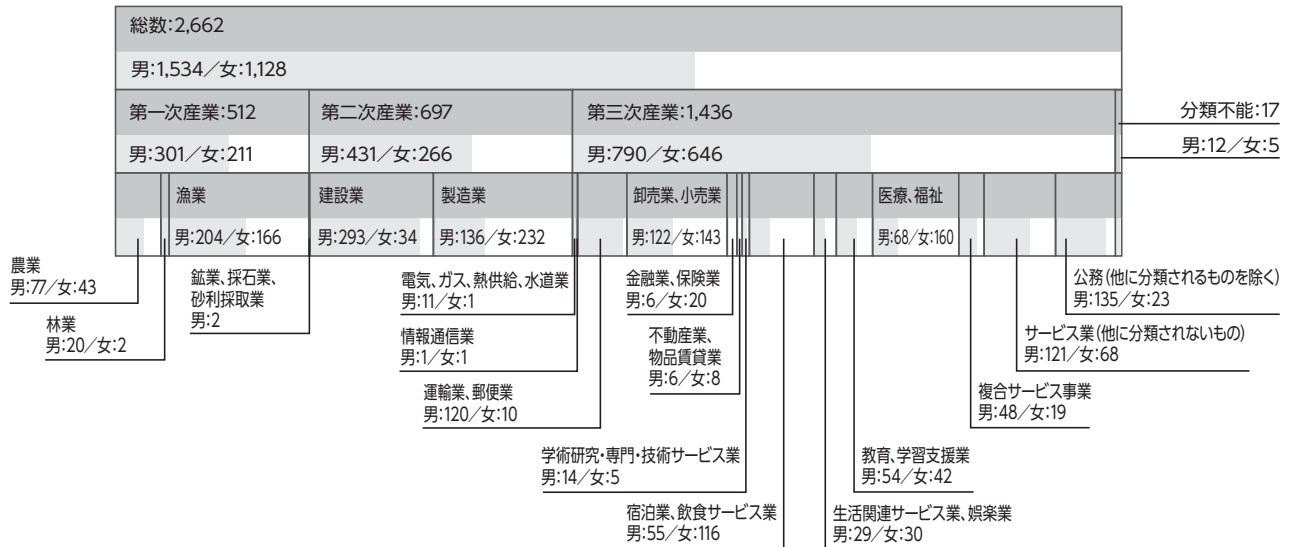
## 漁業

### ●漁港の概要(令和5年4月現在／産業振興課調)

| 静狩漁港 (m) |       | 国縫漁港 (m) |       | 長万部漁港 (m) |       | 大中漁港 (m) |       |
|----------|-------|----------|-------|-----------|-------|----------|-------|
| 東防波堤     | 424.0 | 東防波堤     | 210.0 | 東防波堤      | 515.0 | 東防波堤     | 350.5 |
| 西防波堤     | 204.9 | 北防波堤     | 130.0 | 南防波堤      | 130.0 | 南防波堤     | 130.0 |
| 西護岸      | 105.0 | 西護岸      | 89.5  | 北防波堤      | 80.0  | 北防波堤     | 350.2 |
| 船揚場      | 50.0  | 南護岸      | 200.0 | 南護岸       | 109.9 | 防砂堤      | 200.0 |
| 西防砂堤     | 220.0 | 北護岸      | 101.7 | 北護岸       | 290.0 | 南護岸      | 155.6 |
| 東防砂堤     | 17.0  | 船揚場      | 50.0  | 船揚場       | 100.0 | 北護岸      | 20.0  |
|          |       | 道路橋      | 247.0 |           |       | 船揚場      | 50.0  |

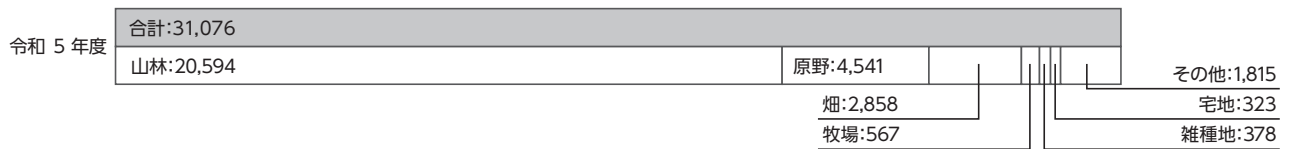
## 人口

### ●産業別就業人口(令和2年国勢調査)



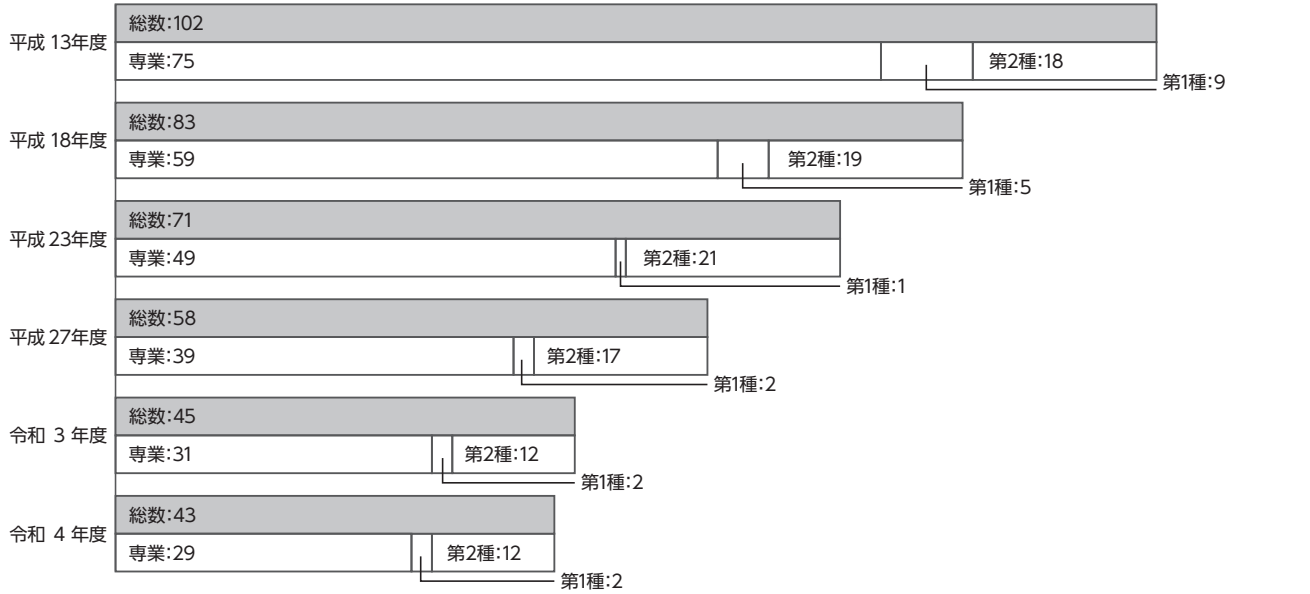
## 土地

### ●土地の概要(令和5年度固定資産概要調書／単位:ha)

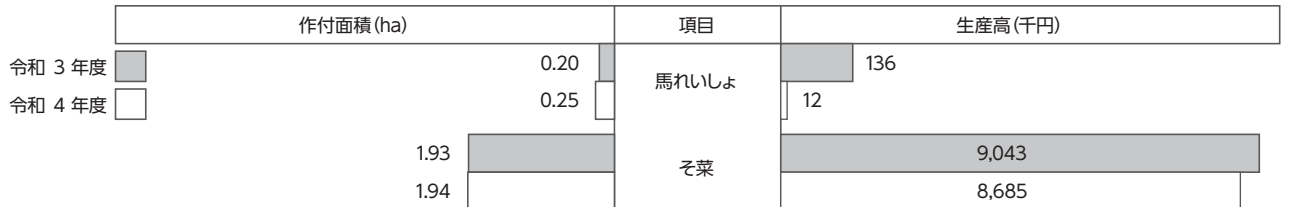


## 農業

### ●農業の概要(産業振興課調／単位:戸)



### ●農業生産の状況(産業振興課調)



観光

●名所

| 名称       | 所在地                 |
|----------|---------------------|
| 植木蒼悦記念館  | 字長万部413             |
| 平和祈念館    | 字長万部413             |
| 二股ラジウム温泉 | 字大峯43               |
| 長万部温泉    | 字長万部（温泉）            |
| 長万部公園    | 字富野243-21           |
| 国縫漁港     | 字国縫602              |
| あやめ公園    | 字栄原143-3、南陣屋川河川敷地の内 |

●温泉の概要

| 名称       | 泉質            | 泉温    | 効能                                                              |
|----------|---------------|-------|-----------------------------------------------------------------|
| 長万部温泉    | 高張性弱アルカリ高温泉   | 49.5度 | 神経マヒ、骨結核、神経痛、腺病質、慢性婦人科疾患、慢性リウマチ、慢性筋肉リウマチ、高血圧、肺結核、急性伝染病、心臓の代謝不全等 |
| 二股ラジウム温泉 | 含ラジウム炭酸カルシウム泉 | 50度   | 胃腸病、慢性関節リウマチ、慢性筋肉リウマチ、神経炎、皮膚病、神経マヒ、痛風、貧血等                       |

●宿泊施設の概要

| 所在  | JR利用駅 | 施設数 | 室 数 | 収容可能<br>人員 | 駐車可能<br>乗用車数 |
|-----|-------|-----|-----|------------|--------------|
| 元町  | 長万部駅  | 1   | 9   | 14         | 8            |
| 温泉町 | 長万部駅  | 8   | 94  | 249        | 100          |
| 大峯  | 二股駅   | 1   | 70  | 100        | 40           |

教育

●学校の現況(令和5年度学校基本調査)

| 学校名        | 学級数 | 児童・生徒数(人) |    |     | 教員数(人) |    |    | その他の<br>職員(人) | 開校年月日      |
|------------|-----|-----------|----|-----|--------|----|----|---------------|------------|
|            |     | 男         | 女  | 総数  | 男      | 女  | 総数 |               |            |
| 長万部小学校     | 9   | 77        | 86 | 163 | 8      | 10 | 18 | 5             | 明治11年5月6日  |
| 長万部中学校     | 5   | 47        | 50 | 97  | 10     | 4  | 14 | 2             | 昭和57年4月1日  |
| 北海道長万部高等学校 | 3   | 26        | 19 | 45  | 6      | 6  | 12 | 0             | 昭和26年4月25日 |

●東京理科大学北海道・長万部キャンパス(各5月1日現在)

| 学部・学科名 |         | 令和元年度  |    |     |        | 学部・学科名             | 令和5年度  |    |     |        |
|--------|---------|--------|----|-----|--------|--------------------|--------|----|-----|--------|
|        |         | 学生数(人) |    |     | 教員数(人) |                    | 学生数(人) |    |     | 教員数(人) |
|        |         | 男      | 女  | 総数  | 総数     |                    | 男      | 女  | 総数  | 総数     |
| 基礎工学部  | 電子応用工学科 | 86     | 11 | 97  | 18     | 経営学部<br>国際デザイン経営学科 | 82     | 50 | 132 | 13     |
|        | 材料工学科   | 93     | 29 | 122 |        |                    |        |    |     |        |
|        | 生物工学科   | 52     | 58 | 110 |        |                    |        |    |     |        |

施設・設備等

●社会教育関係施設等の現況

| 施設名称         |                   | 設置年月日          | 規模・仕様                                        |
|--------------|-------------------|----------------|----------------------------------------------|
| 文化・社会教育・文化財等 | 長万部町福祉センター        | 昭和47年 8 月 4 日  | 1,955㎡、講堂、調理実習室、和室、集会室、大会議室、小会議室等            |
|              | 長万部町学習文化センター      | 平成 4 年 9 月 2 日 | 1,954.46㎡、図書館、文化ホール、楽屋控室、研修室、AV室等            |
|              | 長万部町民センター         | 昭和54年12月20日    | 726.45㎡、郷土資料室、鉄道村コーナー、埋蔵文化財コーナー等             |
|              | 平和祈念館             | 昭和58年8月15日     | 217.77㎡、石仏、仏像、仏画等展示                          |
|              | 植木蒼悦記念館           | 昭和57年10月 8 日   | 122.00㎡、植木蒼悦画伯絵画等展示                          |
| 体育施設         | 長万部町ファミリースポーツセンター | 昭和49年6月20日     | 2,617.1㎡、アリーナ（バスケットコート×2面）、小体育館等             |
|              | 青少年会館             | 昭和52年11月30日    | 566.1㎡、柔道場、剣道場                               |
|              | 町民体育館             | 昭和57年12月17日    | 844.95㎡（旧長万部中学校体育館）、土間体育館（弓道、多目的使用）          |
|              | 長万部町B＆G海洋センター     | 平成 3 年 5 月23日  | プール棟上屋／875.06㎡、大プール13m×25m、小プール10m×6m、シャワー室等 |
|              | 長万部町営スキー場         | 昭和49年 4 月25日   | 8,074.27㎡、ロープトウ1基（変速可）、夜間照明あり                |
| ふれあい球場       |                   | 平成 8 年 7 月 1 日 | 9,500㎡、夜間照明6灯、両翼86.87m、センター97.54m            |

漁業

●種類別漁獲高(産業振興課調)

| 漁種   |         | 令和3年度     |        |           |        | 令和4年度     |        |           |        |
|------|---------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
|      |         | 漁獲量(t)    | 構成比(%) | 漁獲高(千円)   | 構成比(%) | 漁獲量(t)    | 構成比(%) | 漁獲高(千円)   | 構成比(%) |
| 魚類   | ひらめ     | 19.96     | 0.1    | 7,109     | 0.2    | 19.54     | 0.1    | 5,728     | 0.1    |
|      | かれい類    | 49.56     | 0.3    | 5,282     | 0.1    | 34.51     | 0.2    | 4,411     | 0.1    |
|      | さけ類     | 136.23    | 0.8    | 117,801   | 2.8    | 132.10    | 0.8    | 89,222    | 1.5    |
|      | まぐろ     | 0.02      | 0.0    | 27        | 0.0    | 0.00      | 0.0    | 3         | 0.0    |
|      | いわし・さば  | 7.26      | 0.0    | 90        | 0.0    | 9.20      | 0.1    | 294       | 0.0    |
|      | その他     | 129.34    | 0.8    | 13,922    | 0.3    | 86.64     | 0.5    | 14,082    | 0.2    |
| 水産動物 | 毛がに     | 11.86     | 0.1    | 55,544    | 1.3    | 10.12     | 0.1    | 47,905    | 0.8    |
|      | うに・あわび  | 19.56     | 0.1    | 29,017    | 0.7    | 7.45      | 0.0    | 14,451    | 0.2    |
|      | その他     | 3.60      | 0.0    | 1,260     | 0.0    | 3.32      | 0.0    | 853       | 0.0    |
| 貝類   | ほたて     | 16,039.20 | 96.7   | 3,916,935 | 92.0   | 17,138.10 | 97.5   | 5,618,843 | 95.5   |
|      | ほっき     | 162.01    | 1.0    | 59,616    | 1.4    | 121.27    | 0.7    | 46,129    | 0.8    |
|      | その他     | 0.60      | 0.0    | 191       | 0.0    | 3.07      | 0.0    | 528       | 0.0    |
| 藻類   | こんぶ・その他 | 13.70     | 0.1    | 52,387    | 1.2    | 8.18      | 0.0    | 38,240    | 0.7    |
| 合計   |         | 16,592.90 | 100    | 4,259,181 | 100    | 17,573.50 | 100    | 5,880,689 | 100    |

●漁業個人経営体数および漁船数(各年1月1日現在／産業振興課調)

| 区分<br>年次 | 経営体数 |     |    | 組合員<br>(人) | 就業者<br>(人) | 漁船の種類およびトン数 |     |            |     |            |     |            |     |     |     |
|----------|------|-----|----|------------|------------|-------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|-----|-----|-----|
|          | 総数   | 専業  | 兼業 |            |            | 0～0.99t     |     | 1.00～2.99t |     | 3.00～4.99t |     | 5.00～99.9t |     | 合計  |     |
|          |      |     |    |            |            | 船外機         | 動力船 | 船外機        | 動力船 | 船外機        | 動力船 | 船外機        | 動力船 | 船外機 | 動力船 |
| 平成 18年   | 111  | 111 | －  | 166        | 298        | 0           | －   | 43         | 8   | 8          | 55  | －          | 36  | 51  | 99  |
| 平成 23年   | 96   | 96  | －  | 156        | 280        | 0           | －   | 40         | 8   | 6          | 43  | －          | 46  | 46  | 97  |
| 平成 28年   | 84   | 84  | －  | 140        | 254        | 0           | －   | 38         | 4   | 4          | 28  | －          | 55  | 42  | 87  |
| 令和 3 年   | 76   | 76  | －  | 146        | 300        | 0           | －   | 31         | 4   | 7          | 17  | －          | 59  | 38  | 80  |
| 令和 4 年   | 82   | 82  | －  | 147        | 321        | 0           | －   | 31         | 4   | 7          | 16  | －          | 56  | 38  | 76  |

商業・工業

●年次別商業の状況(平成14・19年商業統計調査、平成24年以降経済センサス調)

| 区分<br>年次 | 合計   |         |            | 卸売業  |         |            | 小売業  |         |            |
|----------|------|---------|------------|------|---------|------------|------|---------|------------|
|          | 事業所数 | 従業者数(人) | 年間販売額(百万円) | 事業所数 | 従業者数(人) | 年間販売額(百万円) | 事業所数 | 従業者数(人) | 年間販売額(百万円) |
| 平成 14年   | 133  | 600     | 10,690     | 16   | 94      | 1,832      | 117  | 506     | 8,857      |
| 平成 19年   | 112  | 558     | 8,572      | 17   | 104     | 1,752      | 95   | 454     | 6,820      |
| 平成 24年   | 81   | 330     | 5,406      | 14   | 37      | 647        | 67   | 293     | 4,758      |
| 令和 28年   | 69   | 317     | 5,764      | 8    | 19      | 462        | 61   | 298     | 5,303      |
| 令和 3 年   | 55   | 249     | 4,803      | 6    | 20      | 362        | 49   | 229     | 4,441      |

観光

●国・道指定文化財等

| 名称                                         | 指定年月日         | 所在地                | 指定省庁  |
|--------------------------------------------|---------------|--------------------|-------|
| 二股温泉の石灰華（道指定天然記念物）                         | 昭和40年6月14日    | 長万部町字大峯30番地外       | 北海道   |
| 東蝦夷地南部藩陣屋跡<br>ヲシャマンベ陣屋跡（国指定史跡）             | 昭和49年8月22日    | 長万部町字長万部375・376番地外 | 文部科学省 |
| 円空作「観音菩薩坐像」1体（町指定有形文化財）                    | 平成23年3月23日    | 長万部町字長万部413番地      | 長万部町  |
| アイヌ民族衣装「ルウンペ」2着、「チヂリ」2着<br>全4着（町指定有形民俗文化財） | 平成23年3月23日    | 長万部町字長万部413番地12    | 長万部町  |
| 丸木船（町指定有形民俗文化財）                            | 平成23年3月23日    | 長万部町字長万部413番地12    | 長万部町  |
| 松前神楽（国指定重要無形民俗文化財）                         | 平成30年 3 月 8 日 | 長万部町、他3市19町3村      | 文部科学省 |

施設・設備等

●主な公共施設等の現況

| 名称                 | 設置場所 | 施設規模                            | おもな内容                              | 収容人員又は定数 | 設置年月日          |
|--------------------|------|---------------------------------|------------------------------------|----------|----------------|
| 旭浜生活館              | 旭浜   | 木造平屋建／326.27㎡                   | 集会室、老人室、相談室、研修室、調理室                | 200      | 昭和61年 4 月 1 日  |
| 陣屋生活館              | 長万部  | ブロック造平屋建／277.55㎡                | 集会室、老人室、相談室、研修室、調理室                | 180      | 昭和49年12月14日    |
| 国縫振興会館             | 国縫   | 木造平屋建／277.00㎡                   | 集会室、相談室、団らん室、娯楽室、調理室               | 180      | 平成30年12月 4 日   |
| 長万部振興会館            | 長万部  | ブロック造平屋建／430.00㎡                | 集会室、老人室、相談室、会議室、調理室                | 220      | 昭和50年11月20日    |
| 高砂振興会館             | 長万部  | 木造平屋建／308.54㎡                   | 集会室、老人室、相談室、研修室、調理室                | 200      | 昭和53年10月25日    |
| 中の沢振興会館            | 中の沢  | 木造平屋建／215.44㎡                   | 集会室、老人室、相談室、調理室                    | 150      | 昭和57年10月14日    |
| 富野振興会館             | 富野   | 木造平屋建一部鉄骨／245.41㎡               | 集会室、老人室、相談室、調理室                    | 150      | 昭和62年10月20日    |
| 双葉振興会館             | 双葉   | 木造平屋建／250.08㎡                   | 集会室、老人室、相談室、調理室                    | 180      | 平成 7 年11月20日   |
| 静狩振興会館             | 静狩   | 木造平屋建／279.06㎡                   | 集会室、娯楽室、調理室                        | 180      | 平成12年12月13日    |
| 大浜振興会館             | 大浜   | 木造平屋建／398.07㎡                   | 集会室、相談室、団らん室、L S A事務室、調理室          | 180      | 平成14年7月10日     |
| 特別母と子の家            | 長万部  | ブロック造平屋建／375.00㎡                | 集会室、老人室、相談室、研修室、幼児室、調理室            | 200      | 昭和47年12月15日    |
| ふれあい会館             | 長万部  | 木造平屋建／513.42㎡                   | 集会室、和室、調理室、会議室、町内会事務室              | 340      | 令和 4 年 9 月 6 日 |
| 老人福祉センター           | 平里   | 鉄骨造平屋建／629.09㎡                  | 集会室、機能回復訓練室、保険相談室、生活相談室、調理室、事務室、浴室 | 200      | 昭和53年12月10日    |
| さかえ保育所             | 長万部  | 鉄筋コンクリート造平屋建／693.04㎡            | 保育室、ほふく室、遊戯室、事務室、調理室               | 60       | 平成17年11月 1 日   |
| 多目的活動センター<br>あつまんべ | 長万部  | 多目的センター棟:在来木造<br>2階建／462.49㎡    | ホール、調理室、木育コーナー、応接室、会議室             | 100      | 平成26年11月20日    |
|                    |      | 多目的コート棟:大断面集成材<br>構造平屋建／219.65㎡ | 多目的コート                             | —        |                |
| 長万部葬斎場             | 富野   | 鉄筋コンクリート造一部2階建／508.10㎡          | 火葬炉、ホール、控室                         | 100      | 平成30年 3 月16日   |

議会・選挙

●歴代首長

| 代順        | 氏名     | 在任期間                             |
|-----------|--------|----------------------------------|
| 1 副戸長     | 竹内 弥兵衛 | 明治 6 年 2 月19日～ 明 治 1 1 年         |
| 2 //      | 三井 勝用  | 明 治 1 1 年～ 明 治 1 2 年 1 1 月       |
| 3 戸長      | 松本 賀積  | 明 治 1 2 年 1 2 月～ 明 治 1 8 年 1 1 月 |
| 4 //      | 林 久寿   | 明 治 1 8 年 1 2 月～ 明 治 2 3 年 1 1 月 |
| 5 //      | 川上 十郎  | 明 治 2 3 年 1 1 月～ 明 治 2 6 年 1 0 月 |
| 6 //      | 鈴木 良助  | 明 治 2 6 年 1 1 月～ 明 治 2 9 年 1 1 月 |
| 7 //      | 浅尾 恒良  | 明 治 2 9 年 1 2 月～ 明 治 3 3 年 1 0 月 |
| 8 //      | 神保 巖之助 | 明 治 3 3 年 1 0 月～ 明 治 3 4 年 1 2 月 |
| 9 //      | 日下部 次郎 | 明 治 3 4 年 1 2 月～ 明治35年5月14日      |
| 10 //     | 太田 留治  | 明治35年5月14日～ 明 治 3 8 年 1 0 月      |
| 11 (二級)村長 | 木村 定五郎 | 明 治 3 8 年 1 0 月～ 明治39年11月6日      |
| 12 //     | 楠本 孝香  | 明治39年11月6日～ 明 治 4 0 年 1 0 月      |
| 13 //     | 森野 光精  | 明 治 4 0 年 1 0 月～ 明治41年 9 月24日    |
| 14 //     | 国府 盛恒  | 明治41年 9 月24日～ 大正元年 8 月 7 日       |
| 15 //     | 小野 総次郎 | 大正元年 8 月 7 日～ 大正 8 年 5 月13日      |
| 16 //     | 中村 次雄  | 大正 8 年 5 月13日～ 大正 9 年 6 月30日     |
| 17 //     | 菅原 直次郎 | 大正 9 年 6 月30日～ 大正11年 1 月13日      |

| 代順        | 氏名     | 在任期間                          |
|-----------|--------|-------------------------------|
| 18 //     | 松原 寅次郎 | 大正11年1月18日～ 大正12年 4 月 1 日     |
| 19 (一級)村長 | 日野 恭三郎 | 大正12年12月15日～ 昭和 4 年 5 月 7 日   |
| 20 //     | 前田 茂   | 昭和 4 年 8 月31日～ 昭和 7 年 5 月 5 日 |
| 21 //     | 藤原 寛因  | 昭和 7 年 5 月29日～ 昭和11年 5 月28日   |
| 22 町長     | 田中 作平  | 昭和11年 6 月 9 日～ 昭和19年 3 月18日   |
| 23 //     | 伊藤 信義  | 昭和19年 6 月 23日～ 昭和21年11月 7 日   |
| 24 (公選)町長 | 土屋 裕   | 昭和22年 4 月 5 日～ 昭和23年 6 月17日   |
| 25 //     | 野嶺 作太郎 | 昭和23年 8 月 5 日～ 昭和26年11月18日    |
| 26 //     | 吉田 常三郎 | 昭和27年 1 月12日～ 昭和30年12月28日     |
| 27 //     | 川村 留治  | 昭和30年12月29日～ 昭和35年 7 月26日     |
| 28 //     | 太田 岩太郎 | 昭和35年 9 月 4 日～ 昭和46年11月 8 日   |
| 29 //     | 西田 君雄  | 昭和46年12月12日～ 平成 3 年12月11日     |
| 30 //     | 中村 勉   | 平成 3 年12月12日～ 平成11年12月11日     |
| 31 //     | 加藤 大明  | 平成11年12月12日～ 平成18年 6 月13日     |
| 32 //     | 白井 捷一  | 平成18年 7 月24日～ 平成26年 7 月22日    |
| 33 //     | 木幡 正志  | 平成26年 7 月23日～ 現在              |

●歴代町議会議長

| 代順 | 氏名     | 在任期間                       |
|----|--------|----------------------------|
| 1  | 中野 嘉平  | 昭和21年10月24日～ 昭和22年 4 月30日  |
| 2  | 吉田 常三郎 | 昭和22年 5 月15日～ 昭和26年12月26日  |
| 3  | 片山 政五郎 | 昭和27年 1 月25日～ 昭和31年 9 月24日 |
| 4  | 西田 嘉平  | 昭和31年9月25日～ 昭和34年 4 月30日   |
| 5  | 中野 嘉千代 | 昭和34年5月12日～ 昭和35年 9 月15日   |
| 6  | 金谷 勝次郎 | 昭和35年10月28日～ 昭和54年 4 月30日  |
| 7  | 菅野 稔   | 昭和54年 5 月9日～ 昭和62年 4 月30日  |
| 8  | 柴山 和彦  | 昭和62年5月18日～ 平成 3 年 4 月30日  |

| 代順 | 氏名     | 在任期間                        |
|----|--------|-----------------------------|
| 9  | 竹内 皎三  | 平成 3 年 5 月17日～ 平成11年 4 月30日 |
| 10 | 高森 治光  | 平成11年 5 月13日～ 平成11年12月22日   |
| 11 | 柳井 利雄  | 平成11年12月22日～ 平成15年 4 月30日   |
| 12 | 白井 捷一  | 平成15年 5 月13日～ 平成18年 7 月11日  |
| 13 | 原田 松蔵  | 平成18年 8 月 8 日～ 平成23年 4 月30日 |
| 14 | 木幡 正志  | 平成23年 5 月12日～ 平成26年 6 月16日  |
| 15 | 辻 義雄   | 平成26年 8 月12日～ 令和 5 年 4 月30日 |
| 16 | 柏倉 恵里子 | 令和 5 年 5 月12日～ 現在           |



この記念誌はサマージャンボ宝くじの収益金を活用して作成しています。